

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県  
和歌山県農業士会連絡協議会

# 和歌山の 農業士

2019  
11  
November

地域農業をリードする熱き農業者達

第13号





# はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

また、本年度、和歌山県農業士会連絡協議会が設立 40 周年を迎えますので、本号並びに第 14 号を 40 周年記念号として、特集記事を掲載しています。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

# C【目次】 CONTENTS

## <巻頭言>

- 「頑張れ！普及指導員！！」 (和歌山県農業士会連絡協議会 会長 岡田 敦雄) …………… 1  
「令和」の時代を迎えて (和歌山県農林水産部 農業生産局長 岩本 和也) …………… 2

## <私の農業>

### 農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

できない作業を担う新しい農業の形

- (紀美野町 指導農業士 水谷 好宏) …………… 3  
安定した切り花生産を目指して ～仕事に誇りを持って～  
(紀の川市 地域農業士 駒井 克俊) …………… 5  
就農してから現在までを振り返って  
(かつらぎ町 指導農業士 辻 重光) …………… 7  
身の丈にあったコツコツ農業！ (湯浅町 指導農業士 富上 将基) …………… 9  
スイカの長期出荷を目指して ～どぶせ栽培の導入と自然との闘い～  
(印南町 指導農業士 森本 智行) …………… 11  
百姓でありたい！ (田辺市 指導農業士 志波 元昭) …………… 13

## <農業に懸ける想い>

### 若い農業者が、農業への熱い思いや取り組みを紹介

農業経営の安定化・農作業の効率化を目指して

- (海南市 青年農業士 中道 裕一) …………… 15  
旨い野菜を作りたい (岩出市 地域農業士 大西 貴富) …………… 16  
脱サラして十年、そしてこれからの農業人生  
(かつらぎ町 地域農業士 山本 悟) …………… 17  
私が目指す農業経営 (有田川町 青年農業士 栗本 幸太) …………… 18  
これからの若い世代に「魅せる」農業を  
(日高川町 青年農業士 橋本 祥吾) …………… 19  
将来に向けて (田辺市 青年農業士 米田 壮伺) …………… 20  
楽しい農業を目指して (那智勝浦町 東牟婁農業青少年クラブ 栗野 稔近) …………… 21

## <県農林大学校学生です。>

### 農林大学校農学部1年生の自己紹介&近況報告(第1回) …………… 22

園芸学科

- 粟生 七海      井上 侍 聡      岡本 集 人      小倉 海 人  
川東 海 慧      竹田 英 晃      田中 照 人      談儀 美 咲  
段上 貫 太

## <役立つ情報、試験研究レポート>

夏秋ギク型スプレーギクにおける消灯後の日長管理技術 (農業試験場 栽培部 副主査研究員 松本 比呂起)	25
開花直前の薬剤散布によるウメ灰星病の防除 (果樹試験場うめ研究所 副主査研究員 沼口 孝司)	27
「2 週間気温予報及び早期天候情報」について (和歌山地方気象台 調査官 芝本 章宏)	29

## <和歌山県農業士会連絡協議会の歩み> 【設立 40 周年記念】

和歌山県農業士会連絡協議会の歩みを年表で振り返る	31
--------------------------	----

## <農業士活動を振り返って> 【設立 40 周年記念】

農業に入り継続し生涯現役で (平成 15 ~ 18 年度 和歌山県農業士会連絡協議会 会長 赤阪 岩男)	35
農業士への期待 (平成 19 ~ 22 年度 和歌山県農業士会連絡協議会 会長 今西 敏文)	36

## <地域での特徴ある取り組み> 【設立 40 周年記念】

「次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み」 (下津町農業士会 会長 森岡 利行)	37
--	----

## <県外研修レポート> 【設立 40 周年記念】

東北研修「地元農産物を活用した販売戦略に学ぶ」 (和歌山県農業士会連絡協議会 副会長(青年) 玉置 貴啓)	39
--	----

## <農業関係事業・制度の紹介>

園芸施設共済について (和歌山県農業共済組合)	41
地域農業士の認定解除年齢が変わりました ~定年が 60 才から 65 才へ延長~ (農林水産部経営支援課)	43
スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの取組について (果樹試験場うめ研究所)	43
2020 年度 和歌山県農林大学校農学部 学生・研修生募集!	45

# 巻頭言

## 「頑張れ！普及指導員！！」

和歌山県農業士会連絡協議会

会長 岡田 敦雄



このたび、会長に就任しましたみなべ町の岡田です。微力ではありますが、皆様の御協力を得て和歌山農業の発展に向けた会運営に努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

さて、会員の皆様方におかれましては、農業士会活動のみならず、地域農業のリーダーとして御活躍なさっていることに厚くお礼申し上げます。

本協議会は、各地方農業士会の相互連携や資質向上、後継者育成活動等を通じ本県農業の振興に寄与することを目的として昭和54年に発足し、今年で40周年となります。

そこで、本誌「和歌山の農業士」第13号並びに第14号を「40周年記念号」として位置付け、内容の更なる充実を図ることとしています。先日実施しました役員・理事による県外研修の記事も掲載していますので、御一読いただければ幸いです。

時代は昭和から平成、そして令和へ。この40年間で農業を取り巻く環境は大きく変化してきました。米や温州みかんの生産調整、輸入自由化、食文化の変化、経営規模の拡大、高齢化と担い手不足など激動の時代の中、先輩農業士の方々は技術改良と経営改善、そして地域活動を通じて本県農業発展の礎を築いてこられました。改めて深く感謝を申し上

げたいと思います。

この過程の中で、農業士の活動を支え本県農業振興の一翼を担ったのが普及組織であることは紛れもない事実であります。しかしながら近年では、普及指導員が減少し、生産現場における農家とのコミュニケーションの場が少なくなり、産地の活力低下につながっているように感じます。

我々は、諸先輩方からのバトンをしっかりと受け継ぎ、本県農業をさらに発展させなければなりません。そのためには、我々生産者と関係機関が連携を密にするとともに、時代に対応した活動により地域の課題を解決していく必要があります。今後普及指導員が果たすべき役割は非常に重要であると考えていますので、より活発な普及活動を期待するためにも普及組織の強化を強く求めるものであります。

最後になりましたが、山崎前会長をはじめ役員を退任されました皆様方に対し厚くお礼を申し上げますとともに、会員の皆様方の御健康と益々の御活躍を御祈念申し上げ、巻頭の言葉といたします。

# 巻頭言

## 「令和」の時代を迎えて

和歌山県農林水産部農業生産局

局長 岩本 和也



農業士の皆様には、平素より、地域における農業振興の核となって、和歌山県農業を牽引していただいておりますことに感謝申し上げます。

農業士の方々は、単に栽培技術や経営力に優れた農家というだけに留まらず、幅広いネットワークと秀でたリーダーシップを駆使して、地域の農業に貢献して頂いております。農業という専門性が高く広範囲にわたる知識・技術、実行力などが必要となる職業で成功するためには、結局のところ人間力（知的能力、対人関係力、自己制御）という総合的な能力が重要であり、農業士の方々はこの点でも他の模範となっているものと考えております。

和歌山県農業士会連絡協議会は、昭和54年に設立され、昭和、平成の時代を乗り越え、令和の時代となる今年で40周年を迎えます。岡田会長を筆頭に、引き続き本県農業の活性化・発展に大きな役割を果たしていくものと多いに期待しております。

さて、和歌山県の農業は、農産物の過剰生産などで価格低迷の時代が続いて参りましたが、最近では需給バランスが改善し、明るい状況もみられるようになってきております。

最新の統計では、平成29年産本県果樹の農業産出額が816億円と15年ぶりに日本一に返り咲くとともに、農業全体の産出額も1,225億円と伸びてお

り、県が策定した長期総合計画の目標である1,200億円を上回ることができました。農産物の価格も再生産価格を上回ることが多くなり、次への投資ができる経営環境が整いつつあります。

一方で、生産性向上や後継者不足、雇用労働力確保など産地を維持していく上で重要な容易に解決できない課題もあります。

県では、これまで行ってきた①優良品種への改植事業などの高品質安定生産対策や②海外市場も含めた販路拡大の支援に加え、経営規模拡大と作業効率向上のため、③遊休農地の活用・集約や農地中間管理機構を介した農地の貸し付けを推進するとともに、④スマート農業に代表される先端機器や先進技術の導入に向けた現地実証を実施し、導入への支援を行ってまいります。また、⑤農業経営の法人化に向けたサポート体制を充実し、経営継承がスムーズに行える環境作りを推進するとともに、⑥雇用労働力の安定的な確保についての仕組みを検討しているところです。

これからは、農業が（やり方次第で）本当に面白い時代になると考えています。県行政も、農業士の皆様とともに、本県農業の発展に向け取り組んで参りますので、令和の時代も引き続き、ご指導、ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## できない作業を担う新しい農業の形

紀美野町 指導農業士

和歌山県農業士会会長 水谷好宏



### 1. はじめに

父親が農業をしており、漠然と継ぐものだと思っていました。その頃はみかんの値段も良かったため、高校は那賀高校園芸科（現在、園芸科はありません）に進学、その後、県農業大学校（現在、農林大学校）に進学し、卒業後すぐに就農しました。農業を始めたばかりの頃は、右も左も分からないまま、紀美野町4Hクラブに入会したり、果樹研究会に所属したりしました。

農業士会との出会いは20代前半の頃です。地元での農業士会の先輩に勧められ、紀美野町農業士会に入会しました。当時、地域の農業士会活動は活発で、静岡の三ヶ日や愛媛に研修に連れて行ってもらったのがいい思い出です。若い時に県外研修に行かせてもらったことは、自身の農業経営においてプラスになることが多かったです。

### 2. 農業経営の方針と状況

就農当初はみかんが4ha、水稻が1haほどありましたが、徐々にみかんから水稻にシフトしていきました。理由としては、水稻は機械化されており、面積を広げてもやっつけていけると感じたからです。水稻にシフトするにあわせて、高齢農家や兼業農家から水稻の請け負い作業を担うようになりました。

紀の川市、和歌山市、海南市周辺の方から、耕うんや田植え、稲刈りなど様々な作業を頼まれますが、

#### 農業経営の概況

- 作付品目と面積
  - みかん 100a
  - 水稻 200a
  - 水稻（請け負い）
- 労働力
  - 家族労働が基本
  - ミカン収穫時に臨時 3～4人
  - 水稻田植え時に臨時 1人

一番多いのは稲刈りです。9月前半から始めるのですが、依頼された方々のコメが混じらないように個



請け負い作業をまわしていくため5台の乾燥機を所有



紀の川市にある水田と乾燥機用倉庫



別に乾燥させるので、乾燥機は5台をもって回しています。

みかんは、稲刈りが終了して一息ついてから収穫シーズンとなり、自分のところで、選果・荷造り・出荷をしています。

みかんと水稻との作業を効率よくするため、倉庫を3棟利用しています。紀美野町にあるのはみかん用で、紀の川市真志川町にある2棟は水稻用として農機具収納用と乾燥機用に分けています。

また、少ない人数で作業がしやすいように、天井クレーンやフォークリフトなどみかんの作業に必要な機械類一式はもちろんのこと、大型コンバインや苗箱並べ機、温湯種子処理機など、水稻に必要な一通りの機械をそろえました。しかし、それと同時に収納場所に困るようになりました。その問題を解決するため、倉庫の外にトラックの中古のアルミコンテナを並べ、機械類を収納しています。新たに倉庫を増築するよりもコストを抑えられ、便利です。



紀美野町にある果樹用の倉庫



外に並べられたアルミコンテナの中には水稻の機械が収納されている

### 3. 今後の経営方針

これからの取り組みですが、水稻の請け負い作業に力を入れていきたいと思います。この請け負い作業については、大きな宣伝はやっておらず、口コミで広げてもらっています。若い人から頼まれることもあります。皆さんに喜んでもらえるのが嬉しいですね。

これからも大きな宣伝は行わず、頼まれた作業は最大限期待に応えられるようにしたいと考えています。

### 4. おわりに

現段階で後継者はいないので厳しい状況ではありますが、これからも自身の水稻栽培と頼りにして下さる方々の水稻の請け負いを経営の柱にして、人に喜ばれるような農業を続けていきたいと思っています。

最後に、令和元年度と2年度の2年間、和海地方の農業士会の会長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。同じ海草地域の農家といえど、お互いに顔を合わせて情報交換することは、ほぼありませんので、会員が情報交換できる場づくりを設けたいと思います。

# 私の農業

## 安定した切り花生産を目指して ～ 仕事に誇りを持って ～

紀の川市 地域農業士

駒井 克俊



### 1. はじめに

私は、平成3年に県農業大学校（現農林大学校）を卒業したあと、愛知県のスプレー菊栽培農家において1年半余り研修を行った後に就農をしました。

私の家では、菊栽培を中心とした経営を行っていましたので、就農時には輪菊とスプレー菊の栽培を行っていました。就農と同時に、ハウス7aを建設し面積拡大を行いました。現状の栽培品目は、輪菊を中心にスプレー菊や小菊、ストックの栽培と徐々に栽培品目を増やしてきています。



菊の育苗

### 2. 農業経営の特徴

現在は、家族4人で栽培を行っています。雇用をできるだけ控え、自家労働だけで年間を通じ栽培できるように農業経営を行っています。両親も高齢化してきており、年齢を考えるとできるだけ作業を効率化しなければ成らないと思い、日々の経営を行っています。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
花卉（施設）	60a
水稻	50a
野菜（水稻裏作）	
タマネギ・キャベツ他	35a
○労働力	
家族	4人

まず、輪菊の栽培では、茎と葉の間から出てくる不要な脇芽を採る作業の少ない品種を栽培しています。（輪菊への仕立てのための芽かき作業は、労力の25%とされています。）

次に、冬期の燃料費（重油加温機に係る費用）を抑えるため、品目をストック栽培へ変更し経費を削減するなど、限られた労働力の中で、栽培・収穫調整作業を行っています。

限られた労力の中で、収穫調整作業にかかる時間生み出すことにより、市場出荷や直売所への販売を組み合わせ、出荷ロスを下させ、販売率向上と生産の安定を目指しています。

また、花き栽培と併せて、水稻栽培や裏作でタマネギやキャベツ、ブロッコリー、レタス等の栽培を行い、直売所向けの販売にも取り組んでいます。



定植後の輪菊



輪菊の芽かき



スプレー菊 ピンチ作業



輪菊 収穫作業

### 3. 今後の経営方針

今後は、両親の高齢化による作業人数の減少が考えられることから、できるだけ雇用は考えず、栽培品目の秀品率を向上させるために、現状のピンチ栽培から1本植え栽培への変更を検討していきたいと思えます。

品種構成についても作業の集中化を防ぐよう変更をしながら、経営面積を現状維持できるように栽培していきたいと考えています。

また、冬場の野菜栽培についても、労働力を考えながら、効率的な栽培を行っていきたいと考えています。

### 4. おわりに

経験を積めば積むほど、農業の奥深い素晴らしさを体験でき、また、自分一人では、乗り越えられない壁があります。

農業士の方々や地域の方々との意見交換をしながら、仕事に誇りをもって貢献していきたいと思えます。

## 就農してから現在までを振り返って

かつらぎ町 指導農業士  
辻 重光



### 1. はじめに

私は、今から 30 年前、23 歳の時に就農しました。当時、営農の主体は父母で、栽培品目は柿 150a、ハウス柿 40a、洋梨 20a、みかん 30a、李 40a の計 280a でした。

29 歳の時に父が急逝。父親が元気だった約 6 年間で、農業のいろはを覚えてもらいましたが、農業の基本的な事が分からず、特に農作業の段取り、又、どの作業をいつまでにしなければならぬかなどが全くわからず、試行錯誤の繰り返しで、このことが分かるまでに 3～4 年を要し、苦労しました。

当時、柿の価格は、平成 8 年までは高かったのですが、平成 9 年には前年比 80% となり、平成 10 年には台風 10 号が襲来し、前年比 70% と低迷しました。

私の祖父の時代は、作ったものが売れた時代。父の代は新規作物を導入したら売れた時代。今は、売り方を考えなければ売れない時代と思い、ネット販売にも取り組み、さらに季節的な販売では忘れられると思い、平成 14 年には加工場を建設し、柿の加工に着手しました。

このように生産から加工・販売までを実践してきましたが、忙しすぎるので施設栽培の面積を少し縮小しながら、次の展開を模索中です。

### 2. 農業経営の特徴

私の父は、柿施設栽培の先駆者で昭和 53 年に「西村早生」5a で栽培を開始。「刀根早生」「前川次郎」

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	170a
刀根早生	70a
平核無	80a
新秋 (施設 10a、露地 10a)	
みかん	30a
李	10a
○労働力	
家族労力	3 人
臨時雇用	10 人 (加工のみ)

など順次、面積を拡大し、最大時で 40a を栽培していました。その頃、甘柿品種「新秋」が品種登録され、この品種との出会いに親子で驚きと感動を覚えたことが契機となり、父亡き後もこの遺志を継ぎ、施設 20a を「新秋」に高接ぎ更新し、現在、施設栽培はこの品種 10a のみに規模を縮小。

平成 21 年にはプレミアム和歌山に認定され、濃厚



施設栽培「新秋」の着生状況

な甘さとしっとりとした食感にこだわって栽培を続けています。

父親の頃はバブル経済の時代で、新しい果物や珍しい物が高価格で取引されていましたが、今では農産物の価格は安価安定となっています。

そこで、私は平成15年に加工施設を整備し、柿チップ、あんぽ柿など柿加工品の製造販売を開始。現在では、この他に柿入りパウンドケーキ、柿クッキーなども製造し、地元の「道の駅」等で販売していますが、栽培管理作業に忙しい時期は販売にまで手が回らず、現時点では、主力商品のあんぽ柿は、卸業者への販売で7割を占めている状態です。



加工施設 兼 直売所（まるしげ農園）

一方、主力品種の「刀根早生」「平核無」については、3段の脚立で収穫できる低樹高栽培を基本に、ほぼ全園に園内道を整備し、スピードスプレー、モア一等を導入し、農作業の省力化、軽作業化を図っています。また、自家生産した柿の全量をあん



主力商品（あんぽ柿）



主力商品（柿チップ）

ぽ柿等の加工用に仕向けており、捨てるものをなくすことで経営の安定化を図っています。

### 3. 今後の経営方針

現在、経営品目は、柿、みかん等の秋物中心であり、特に、たねなし柿に偏重しているため、今後、李やブドウなどの夏果物も導入し、年間を通して収益が得られるようにと考えており、昨年から栽培技術の習得も兼ねて「シャインマスカット」の試作を始めています。

また、加工部門については、今後、特許や商標登録の取得を考慮しながら、他の同類商品との差別化や柿以外にも新規に加工品を開発し、今後、計画的に皮むき器や乾燥機等の加工用機器の更新も考えながら、製造・販売に取り組んでいきたいと考えています。

さらに、かつらぎ町内で14haの圃場整備が進行しており、この造成地の有効活用について関係者で協議を始めているところです。

### 4. おわりに

現在、私は53歳。父親が他界した年齢を超えましたが、農業経営に関して父を超えたいと思いません。まだまだ自分をはがゆく思っており、今後も亡き父を超える努力を続けていきたいと思っています。

# 私の農業

## 身の丈にあったコツコツ農業！

湯浅町 指導農業士

富 上 将 基



### 1. はじめに

私は、昭和 51 年に県農業大学校（現農林大学校）を卒業後、就農しました。

当時はみかんの価格も低く、実家を継がずに、就職する若者も多くいました。

しかし、農業大学校時代の先輩や同級生、地元の仲間にも恵まれていたため、私は、代々続く農業を継ぐことを選択しました。

### 2. 農業経営の特徴

#### (1) 経営面積

両親を中心に、2ha の園地を管理していましたが、私の就農に伴い、親戚の園地を 60a 借り、その後も借地を増やし、現在では、3ha を栽培するに至っています。園地の 1/3 が借地であることは、我が家のひとつの特徴だと思っています。その時々での経営状況に合わせて、柔軟に栽培面積を変更できるため、強みでもあります。

#### (2) 栽培品目

当初は木なり八朔が多かったですが、需要の変化も考慮し、15 年ほど前から、ゆら早生に転換し、栽培面積を増やしてきました。また、家族労働であるため、収穫期が集中しないよう、様々な品種、品目を取り入れています。それぞれ、栽培方法が異なり、苦戦することも多いですが、日々、勉強しながら取り組んでいます。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
・温州みかん	250a
〔 上野・日南	30a
ゆら早生	40a
早生	90a
普通	90a
・中晩柑	50a
〔 八朔	10a
不知火	10a
清見	20a
はるみ	10a
○労働力	
家族	2 人
臨時雇用	随時



温州みかん園地

#### (3) 作業の省力化

男手が少ないこともあり、いかに作業を省力化できるかを考え、設備投資をしてきました。私が就農した当時は、県営のスプリンクラーによる防除と手散布による防除が半々でしたが、独自にスプリンク

ラーを設置し、園地の2/3はスプリンクラーによる防除ができるようになっています。

また、倉庫でのコンテナ運搬作業を省力化できるよう、吊り下げ式の運搬機材を導入しました。家族からも、かなり作業が楽になったと好評です。



スプリンクラーによる防除



コンテナ運搬機材

#### (4) 雇用

家族労働だけではまかなえないため、地元の方を中心に雇用しています。

別のアルバイトまでの合間に数時間来てもらったりと柔軟に対応しているため、雇用者が、さらに知人の方に声かけしてくれるので助かっています。

#### (5) 地域での取り組み

就農時に4Hクラブに加入し、先輩や後輩たちと

ともに活動をしてきました。

プロジェクト発表した際には、東京の大会にも参加させていただき、良い機会となりました。

また、4Hクラブを卒業後、昭和54年に青年農業士に推薦していただき、世代を超えて、たくさんの地元農家と関わることができました。

こうした先輩や仲間から教わったこと、研修会等で得た技術や知識は、私の今の経営にも活かされています。

### 3. 今後の経営方針

規模拡大や新たな設備投資よりも、身の丈に合った農業に取り組んでいきたいです。

数年後に、継いでくれるだろう息子が、無理なく管理できる規模へ不適地を減らしたり、河内晩柑等、収穫期の遅い中晩柑を導入したり、経営の合理化を図っていきたいです。



摘果作業

### 4. おわりに

これからは、農業者も大きく減り、今の若い人たちは、私たちの世代とは全く異なる状況で農業をしていかななくてはいけないと思います。

大変なことも多いと思いますが、農業士会、4Hクラブや農協の部会などを通じて、仲間づくりをし、楽しく農業をしていってほしいです。

## スイカの長期出荷を目指して ～ どぶせ栽培の導入と自然との闘い ～

印南町 指導農業士

森 本 智 行



### 1. はじめに

私は県立南部高校を卒業後、1987年に就農しました。就農時は主に野菜栽培（キヌサヤ、大玉スイカ）が主でした。しかし、私が就農3年目を迎える頃、ビニールハウスによる施設栽培が当地域でも盛んになり、約10aのハウスを新設しました。さらにその翌年には20a、翌々年には10aを増設し、経営の柱を施設栽培へと転換していきました。

施設ではキヌサヤを中心に栽培していましたが、バブル期を迎えて切花（宿根カスミソウ、スターチス）へと換わっていきました。その頃、スイカ栽培も大玉から小玉へと換わりました。

### 2. 農業経営の特徴

小玉スイカは、5月中旬から7月下旬にかけてJAや近くの市場に出荷しています。小玉スイカの品種は、「紅小玉」→「サマーキッズ」→「ひとりじめ」と変わっていき、現在は「ひとりじめ7」を栽培しています。ひとりじめ7は糖度が高く果皮が薄く、大玉に近いシャリ感を持っているのが特徴です。

栽培当初は、「トンネル早熟栽培」を中心に栽培をしていましたが、収穫等の繁忙期に管理が十分に行き届かず、栽培できる面積が限られていました。そこで、トンネル早熟栽培とは収穫期が異なり省力化が可能な「どぶせ栽培」を導入しました。どぶせ栽培とは、交配までの期間をトンネル内で放任栽培

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
小玉スイカ	80a
スターチス	40a
キヌサヤ	15a
ブロッコリー	30a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	1～2人

とし、トンネルを除去してからは露地栽培とする作型です。私の場合、トンネル早熟栽培は3月中下旬に定植し、6月中下旬の収穫で、どぶせ栽培は4月上旬に定植し、7月中下旬に収穫しています。どぶせ栽培の導入により、繁忙期を分散することができ、長期出荷が可能になりました。また、それに伴い栽培面積を増やすことができました。

しかし、どぶせ栽培は栽培時期が雨の多い梅雨時になってしまうという大きな欠点があります。収穫前に雨が長期間続くと、炭疽病が出たり果実が腐ってしまうことがあります。定期的な消毒や風通しをよくするための整枝を行い、また水はけをよくするために畝間を広くとるなど色々工夫をして対策しています。しかし、自然にはなかなか勝てないもので、水はけの悪い畑では炭疽病や腐りが出てしまいます。

今後は水はけの悪い畑の定植時期を10～15日



早くして、梅雨時期を避けて栽培することができないか考えています。

また、スイカを栽培し始めたころから「着果棒」を活用し、適期の収穫を行っています。

着果棒は、果実が卵くらいの大きさになる頃に果実の横に立てます。着果棒は立てる日によって色の組み合わせが違うので、いつ着果した果実か一目で判別することができ、適期の収穫が可能となります。



トンネル早熟栽培



どぶせ栽培

### 3. 今後の経営方針

この20年間、両親と夫婦4人、子供が生まれてからは6人で、心身ともに無理をして頑張ってきたように思います。今年、子供2人も独立したことで、少し余裕のある農業経営に転換していきたい



着果棒を立てたスイカ果実

と思います。自身や家族の負担が過大にならないよう、今年は雇用労働力を増やしましたが、6月中旬から雨が続いたこともあり、仕事がなくなってしまうこともありました。雇用を増やしたり、それに応じて栽培面積を変えてみたりと、自分に合った農業経営の形を探していきたいと思います。

また、スターチスの価格が低下傾向にあるため、スターチスに代わる品目があれば取り組んでみたいと考えています。

### 4. おわりに

近年、大きな自然災害が続いています。昨年は夏場にかけてないほどの高温が続いたり、台風が相次いで襲来するといった、災害に振り回された年でした。

今後も、台風や高温、集中豪雨など心配ごとは尽きませんが、自然災害に負けないように頑張っていきたいと思います。

# 私の農業

## 百姓でありたい！

田辺市 指導農業士

志波元昭



### 1. はじめに

子供の頃から農業は自分が継ぐものだと思っていた私は何の迷いもなく南部高校に入学し、高校を卒業していざ就農したものの、その当時、地元で就農したのは私だけでした。

そして地元の先輩方から誘われるまま、青年団や4Hクラブに入り、その活動に没頭していきました。その中で県内外の多くの人たちと出会い、情報交換しているうちに我が家の経営上の課題が見えてきました。

### 2. 農業経営の方針と状況

私の住む上秋津地区は、柑橘の栽培が盛んで新しいものが好きな地域です。特に新品種には敏感で、積極的に導入するものの、結果的に混植園が多くなり、その上急傾斜地という悪条件であるため、作業効率が悪い園地がたくさんありました。

これを改善するため、積極的に重機による園地改造を行い、園内道の整備に努めました。

これまで20種類近くあった温州みかんを価格や作業効率、将来性を考え数品種に絞りました。

上秋津地区はもともと温州みかんの早出しの産地であったため、様々な極早生品種の中から「日南1号」を選択し、畝を立て、かん水設備を導入しました。そのような中、出会ったのが「ゆら早生」でした。

この品種が登録された時から注目はしていたもの

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	120a
梅	70a
中晩柑	50a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	1人



ゆら早生マルチ栽培園地

の、着色が悪いという理由で、なかなか評価されませんでした。ゆら早生をたまたま試食した時、その美味しさに衝撃を覚えたのを今でも忘れる事が出来ません。

早速、10aの畑をうね立てし、ゆら早生を宮本早生に高接ぎしました。その後も栽培面積を増やし、今では我が家の温州みかんの主力品種となっています。

---

---

また、温州みかん以外に我が家では、梅を栽培しています。温州みかんの適さない園地や水田転換園を中心に梅を植栽しました。当時は「南高梅」のブームでありましたが、労力配分を考慮し、漬け梅用として小梅を半分植栽しました。2～3回遅霜の被害に遭いましたが、予想以上の収益を上げることが出来ました。

梅価格の下落を機に、大半を漬けていた大梅は青梅出荷とし、価格の良い小梅干しを増やしました。また収益の低い急傾斜の園地を手放して、その分の労力を高品質みかんの栽培に注力した結果、これまで以上の収益を上げることが出来ました。

我が家は基本的に家族労働です。「少ない面積でいかに収益を上げるか」をずっと考えてきました。その結果、自力で販売は行わず、高品質、高単価を目指し、青果物の生産に注力しました。特に極早生品種は全園マルチ栽培とし、栽培当初より少し背伸びした目標をクリアすることが出来、さらに今後の増益の目途も立っています。

### 3. 今後の経営方針

気がつけば60才を超え、体力の衰えも気になりだしてきました。温州みかんと梅の複合経営は効率的であるものの、一年中仕事に追われる日々で、「我が家の働き方改革」を考えなければなりません。省力化による時間短縮はもちろん、様々な角度からより効率化を求めて行きたいと思っています。

予定していた投資も一段落し、その果実を味わう時期になった今、充電式の電動農機具にはまっています。剪定鋏、運搬車、噴霧器、チェーンソー、高枝切り鋏、草刈機等・・・バッテリーの管理はやや面倒ではありますが、その快適性はエンジンのものとは比較になりません。今後ますます新たな製品が開発されるのを期待しています。

### 4. おわりに

私の取り組んできた経営内容は、今の時代に逆行しているのかもしれませんが。これまで多くの失敗を経験した中で、家族経営で自分が出来ることとして、栽培に専念することが自分の性格に一番合っていると思います。古臭い考えと思われるかもしれませんが、現在の人手不足を考えると、あながち間違っていないかと思っています。

自営業は可能性とリスクが混在します。挑戦しないと何の前進もありません。事業主にありがちな独善的な考えではなく、多くの情報を取り込んで、経営に生かすことが大事であり、経営の面白さでもあります。

百姓の「姓」は仕事を表します。幸い器用だった父から大工、左官、石積みを習い、これまでの人生で非常に役に立ちました。「自分で出来ることは自分です。」様々な技術と知識が経営の幅を広げてくれます。今でも暇になれば、バーナー片手にプラスチックを加工し、ノコギリやノミで木を組み、セメントを練り、鉄を加工して少しでも楽に便利にならないかと思ってガラクタを作っています。

それからもう一つ。先にも書いたように、私は青年団と出会い、活動に没頭しました。退団してからも行政や様々な組織とかかわりながら社会活動を続け、多くの貴重な経験をさせていただきました。いろんな場面で共に活動した方と何十年ぶりに会ったりすることが度々あり、活動で築いてきた人のつながりが私の財産だと気づかされます。これは妻の理解はもちろんですが、私が農業をしていたからこそ出来たものであり、この仕事を選んで良かったと今更ながら実感しています。

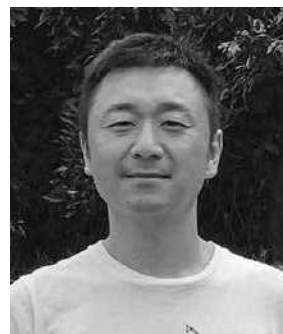
これからも人と人とのつながりを大切にする農村で暮らせることに感謝しながら、農業を続けたいと思います。

# 農業に懸ける想い

## 農業経営の安定化・農作業の効率化を目指して

海南省 青年農業士

中道裕一



### 1. はじめに

私は、県農業大学校（現農林大学校）を卒業後、農業研修生海外派遣事業による2年の派米研修を終えて平成18年に就農しました。就農してからは父と一緒に農作業を行うことで栽培技術の習得に励み、現在は温州みかん、中晩柑（はるか、八朔、甘夏、清見等）、キウイフルーツを栽培し、柑橘類は県内外の市場やJAながみね「とれたて広場」、キウイフルーツはJAへ出荷しています。

### 2. 農業への想い・取り組み

私は、温州みかんの連年結果や高品質果実生産のためには、基本的な栽培管理が重要であるとの思いから、剪定や施肥作業などを確実に行うよう常に心掛けています。また、老木樹を中心に優良品種への改植を行い園地の若返りを図るとともに、スプリンクラーを一部園地に、モノラックをほぼ全ての園地に設置することで農作業を省力化しています。

現在は、普通温州が栽培面積の大半を占めていますが、今後は販売単価が高い極早生などの割合を少し増やして所得向上、労力の分散を図るとともに、スプリンクラーの設置面積を増やすなどして農作業を省力化し、2人の幼い子供達と遊ぶ時間も大切に



はるかの栽培園地

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	200a
中晩柑	60a
（はるか、八朔、甘夏、清見等）	
キウイフルーツ	40a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	2人

していきたいです。

話は少し変わりますが、8年程前に私が住む海南省下津町小南地区内の若手農業者とグループを組んで地域の耕作放棄地を再生し、新たな特産品になればとの思いでアボガド栽培を始めました。来年頃から本格的に収穫できそうなので、こちらも楽しみにしています。

最後に、本年2月に先代から受け継がれてきた「下津蔵出しみかんシステム」が日本農業遺産に認定されました。この全国に誇れる素晴らしいシステムが維持されていくよう、青年農業士として地域の若手農業者と切磋琢磨しながら頑張っていきたいと思います。



海南省下津町小南地区の風景

# 農業に懸ける想い

## 旨い野菜を作りたい

岩出市 地域農業士

大西 貴 富



### 1. はじめに

私は就農して4年目になります。就農前までは、紀ノ川農業協同組合に勤務し、柑橘類の選果や、得意先へ出荷する野菜の荷造り等を担当していたこともあり、農業をととても身近に感じていました。

実家は水稲と野菜（葉菜類・果菜類）の栽培農家であったこともあり、農協で働いているうちに、農業への気持ちが強くなるにつれ、自分自身で野菜を栽培し、出荷してみたいと思うようになり、農協を退職し就農しました。

### 2. 農業への想い・取り組み

就農当初は、水稲・タマネギ・トウモロコシなど、両親が行ってきた露地作物と施設キュウリの栽培を行っていましたが、就農後は、従来の作物の他、ねぎろ大唐やナスの栽培にも取り組みを始めました。

昨年の台風21号による施設被害もあり、まだまだ順調ではないですが、これからは、ナスやトマトなど品目も施設で栽培していこうと思っています。

農協主催によるIPM（総合的病害虫・雑草管理）講演会への参加をきっかけに、とても興味をもち、これからの農業に取り入れていくことを検討しています。

これからも、多くの方との交流や研修会への参加により、旨い野菜作りを目指したいと思っています。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稲	70a
タマネギ	10a
キュウリ	10a
ねぎろ大唐、ナス他	10a
○労働力	
家族	4人



ねぎろ大唐の管理



ナスの収穫

# 農業に懸ける想い

## 脱サラして十年、 そしてこれからの農業人生

かつらぎ町 地域農業士  
山本 悟



### 1. はじめに

私の実家は紀の川市にありますが、20年前に縁があっかつらぎ町四郷の山本家に婿養子に来ました。当時は、義祖父母が30aぐらいの園地で農業をしていて、収穫時や忙しい時など休日に手伝う程度でした。私は結婚後もサラリーマンを続けていましたが、10年前に祖父母が高齢になり農業が出来なくなったのを機に退職し、新たに農地を借りて専業で農業をすることにしました。

### 2. 農業への想い・取り組み

栽培品目は、柿とみかん・柑橘類が主で、柿は紀ノ川柿もしています。この柿は渋柿を樹上でひとつひとつ袋掛けして脱渋したもので、手間がかかりますが「刀根早生」の出荷時期が終わってからの収穫になるので、少ない労働力でも時期を分散して収穫できるメリットがあり取り組んでいます。

みかん・柑橘類は、すべて直売所やネットでの小売りが中心で、独自ブランドとして商標登録「山の神」を取得。SNSやブログなどに写真や記事を投稿したりして広く認知されるようにしています。

今年で就農して10年になりますが、当初は専業農家になることに周囲からも「大丈夫？」と農業に対するイメージはあまり良くありませんでした。私自身、農業経験はほとんど無く不安はありましたが、当時は農産物の直売が盛んになり始めた頃でこれをメインに農業をしようと計画しました。

また、農地を借り入れて規模拡大できたことも幸いでした。

ネットショップを開設し、直売所へも農産物を出荷するようになり、就農して3年くらいは大変でしたが次第に売上も増えるようになりました。

平成が終わり、新しい年号の令和に変わりましたが、私も10年の節目を迎え、また新たな気持ちで農業と向き合おうと思っています。

### 3. おわりに

農業は大変なことの方が多いですが、魅力ある職

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	80a
梅	30a
みかん、柑橘類	30a
○労働力	
家族2人、臨時雇用2人	



樹上脱渋処理した「刀根早生」

業だと思っています。農業を始めてから10年の間に農業を通してたくさんの方に出会い、そして助けてもらいました。

新規就農者から始めた私が農業を続けてこれたのも、そうした方々の助けがあったからこそと感謝しています。

農業経験も栽培技術もまだまだ未熟ですが、いつか機会があれば、私と同じように農業を始めた方の手助けが出来たらと思います。



柑橘園

# 農業に懸ける想い

## 私が目指す農業経営

有田川町 青年農業士

栗本幸太



### 1. はじめに

私は、県農業大学校（現農林大学校）で花き栽培を勉強し、卒業後は花屋に就職して2年間知識向上に励みましたが、生まれ育った実家の柑橘農家を継ぐために就農して現在13年目になります。

### 2. 農業への想い・取り組み

就農して、柑橘栽培の仕事をこなしていくうちに、「作業労力の軽減」、「作業効率の向上」、「天候に左右されないみかん作り」という目標ができました。

夏場の作業の辛さを軽減するために、摘果剤を有効活用して少しでも暑い時間帯の作業時間を短くすることや、薬剤散布を手際よく行えるように余裕を持たせた栽植密度にするなどの取組を行っています。

また、近年の異常気象には頭を悩まされており、生理落果の過多、糖度不足、着色不良などの問題を克服するために、みかんの表年・裏年など着果（着花）状況にあわせた摘果剤（ターム）の活用や、雨の多い年はフィガロンを使って熟期促進を図るなど、試行錯誤しています。

これらの問題をクリアする事が安定した収入に繋がると信じているので、今では、信頼する先輩、気の合う仲間と情報を共有し合い、みんなで相談しながら「ラクして金儲け」できる経営をめざして頑張っています。

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	300a
中晩柑	30a
柿	10a
山椒	10a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	3人



夏期の摘果作業



作業スペースが確保されたほ場

# 農業に懸ける想い

## これからの若い世代に「魅せる」農業を

日高川町 青年農業士

橋本祥吾



### 1. はじめに

私は実家の家業を継ぐのに25才の時に就農し14年目になります！学生時代は農業にあまり関心はなかったのですが、20才を過ぎ徐々に農業に関心が湧くと同時に、地元をもっと盛り上げたいという気持ちも重なったことが就農のきっかけになりました。

栽培品目は温州みかん、ウメ、ウスイエンドウ、ブロッコリー、ピーマンを季節に応じて家族と共に栽培しています。

### 2. 農業への想い・取り組み

就農当初は、果樹や野菜と多岐にわたる品目の管理に追われる日々でしたが、両親をはじめ、先輩、親友達から必要なことをたくさん習得し、今ではさまざまな品目の栽培管理が可能になりました。

就農後、親友からの勧めで入会したJA青年部での活動をはじめから、私と同世代、特に若い世代の農業後継者が非常に少なくなっていると感じることが多いです。話し合いでも「農業後継者が減っている」「これからの農業は大変だ」という声を聞くたびに、そのことを自分自身も次第に意識するようになりました。そして、若い人が少ないなら、若い自分がまず農業を通じて地元へ貢献していけないだろうか考えるようになっていきました。

魅力的な仕事があっても、その一方には大変さや



ウスイエンドウの状態をチェック

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	80a
ウスイエンドウ	50a
ブロッコリー	50a
ウメ	30a
ピーマン	10a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	1～3人

苦勞が必ずつきまとうと思います。その大変な事を試行錯誤し克服していくことで、その仕事の魅力が生まれると私は思います。農業では「人が食べる物をしっかりと作る」という自負が生まれ、誇りを持つことにつながると思います。また、「食べ物を作る大切さ」、「食べることの大切さ」、「時間を作る大切さ」、「家族・友達・地域との繋がりを作る大切さ」が農業にはあることに気がきます。何より、農業への魅力を感じてもらうには、夢のある話や前を向いた話をし、笑顔になることだと考えます。

これから地域や家族の為に私が魅せる仕事をして活気ある地域にしていくためにも、まずは収益を向上させ、そしてまわりの生産意欲もあげていきたいと考えています。農業という仕事を若い世代に「魅せていく」ことを意識して頑張りたいと思います。



若手メンバーとのつながり



# 農業に懸ける想い

## 将来に向けて

田辺市 青年農業士

米田 壮 伺



### 1. はじめに

私は22才で就農したのですが、結婚を機に24才で農業を離れ、運送業に従事していました。

運送業で3年間日本全国を飛び回る中で、どの市場へ行っても和歌山県の果樹等の生鮮物の品質が高いことが分かり、再び農業に興味を持ち、改めて就農しました。

### 2. 農業経営への想い・取り組み

我が家の経営は、柑橘、梅、スモモの複合経営ですが、自分なりに一番力をいれているのが、早生みかんです。糖度の高い、高品質なみかんを栽培するため、毎年開催される田辺農林水産業まつりの農産物品評会で和歌山県知事賞を受賞することを1つの目標に、JAの営農指導員等から剪定の仕方や施肥のタイミング等、高品質なみかんの栽培方法を学びました。みかん畑はすべて全面マルチ栽培を行い、JA紀南の最高級ブランド「木熟201」を出荷できるように努めています。

2年前に1つの目標であった県知事賞を受賞して、みかん作りがますます楽しく思えるようになりました。今後は極早生品種もすべて早生品種に改植していきたいと考えています。

梅栽培については、両親が高齢になってきているので、これまでの脚立に登っての手採り収穫からネットを敷いて拾う収穫に移行しています。今後はこれまで以上に作業の効率化を図ることが大切であると考えています。

私の住んでいる田辺市稲成地区は、私と同年代の農業青年が多く、会えば農業に関して熱心な話合いが出来、お互い切磋琢磨しあえる関係なのでとても楽しく、やりがいを感じています。

子供は3人いるのですが、3人目に待望の男の子

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
柑橘	100a
梅	90a
スモモ	60a
野菜	4a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	2人



早生みかんの全面マルチ栽培園



南高梅ネット収穫園

が誕生しましたので、さらに気合いが入ります。将来、農業を継いでくれるかはわかりませんが、息子の世代に引き継いでいけるよう、改植や設備投資を積極的に行いたいと考えています。

# 農業に懸ける想い

## 楽しい農業を目指して

那智勝浦町 東牟婁農業青少年クラブ  
栗野 稔 近



### 1. はじめに

私は、茨城県にある鯉淵学園を卒業して、鯉淵学園のトマト、キュウリの実習専任講師として1年間働き、その後地元（太田地域）へ戻るためにJAの営農指導員になり農家との交流を深めました。34才の時に実家のイチゴハウスと水田を引き継いで就農し、今年で2年目になります。

那智勝浦町の太田地域は、もともとイチゴと水稲のコシヒカリの栽培が盛んで、とくにイチゴは「くろしおいちご」として親しまれ、地元市場からも高く評価されています。

### 2. 農業への想い・取り組み

イチゴ栽培では、1年目からくろしお苺生産販売組合に入り、品種「まりひめ」の収量低下を招く炭そ病、ハダニなどの病害虫対策、中休み防止に向けた栽培管理技術の検討会や研修会に参加してきました。現地検討会や現地研修会を重ねることで情報共有ができ、今後は大玉果や高品質生産につなげて所得を上げていきたいです。また就農1年目で台風の襲来によるハウスの倒壊の被災を受けたので、これからは耐風性ハウスを導入し、高設栽培にも取り組もうと考えています。

水稲は、耕作をやめる農家からも農地を借り入れて規模拡大に取り組み、現在コシヒカリを中心に4haまで拡大しています。学校給食や介護施設、農協に出荷しており、一部の水田では試験的に有機質を投入して食味の向上を図っています。

また、現時点ではイチゴと水稲の栽培で手一杯ですが、安定して栽培できるようになれば、露地野菜

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稲	400a
イチゴ	9a
○労働力	
家族	2人



イチゴの育苗研修会



コシヒカリの収穫

も栽培していきたいです。

結婚を機に、圃場から車で15分程度のところに住み太田に通っていますが、ゆくゆくは生まれ育った太田で暮らし、イチゴと水稲、露地野菜を栽培して家族で「楽しい農業」を実現していきたいです。

# 県農林大学校学生です。

## ～農林大学校農学部1年生の自己紹介&近況報告(第1回)～

### 園芸学科

私は、有田郡湯浅町出身です。高校は、有田中央高等学校出身で総合学科の農業コースに所属していました。農林大への入学動機は、私の家がミカン農家で親の後を継ぐ目標があったので、農業知識・技術をさらに広げようと考え農林大学校を選びました。

私は、小さいころから農業をしている両親を見てきました。少しでも実家の農作業の手伝いの経験はありますが、手伝いをしている時もまだまだ知識・技術不足を感じることもあります。農林大学校で勉強して両親の役に立てるようになることを目標にがんばりたいです。



栗 生 七 海



井 上 侍 聡

僕は有田郡湯浅町出身で、家はミカンの専業農家をしています。この学校を選んだきっかけは、農業に関する技術などを学び、自分が家業を継いだ時にその技術を活かしていきたいと思ったからです。

この学校では、果樹の育て方や農業機械、その他農業に関すること全般について学ぶことができます。

特に、僕が力を入れたいと思うのは、農薬のことについてです。農薬散布は、果樹や野菜などを栽培する上で最も大切な作業の一つです。この二年間を将来に活かせる価値のある学校生活にしたいと思います。

僕の出身は御坊市で、実家は祖父と祖母が兼業農家をしています。

この学校に入学しようと思った理由は祖父や祖母の手伝いができるような知識や技術を身につけて今以上に実家の農業経営をよりよいものにしようと思ったからです。

学校での専攻実習では実際に農作業をして実践技術が身につきますし、農業機械等の資格がとれるのでやりがいを感じています。

また、仲間作りもしながら学生生活を楽しまたいです。



岡 本 集 人



小倉海人

私は、紀の川市出身で、農業に興味をもったきっかけとして一番影響が大きかったのは、高校時代に行った農家でのアルバイトです。そこでは桃を栽培しており、収穫の際も脚立の上り下りが高齢者にとってはしんどそうで、少しでも助けになればと思いました。このような高齢者が農業を支えているのが現状だと思い、農業に対する技術や知識を身につけ、将来は自分も農業をして、今衰退していている農業を盛り上げられたらいいなと思っています。この学校ではいろいろなことに挑戦し、実践で使える技術を身につけていきたいと思っています。



私は大阪府出身で、大阪の農業高校に通っていました。

高校生活の中で農業について学ぶ中で特に果樹についてもっと知りたいと思い、農林大に進学すると決めました。地元の農大ではなく和歌山に進学した理由は、大阪は果樹よりも野菜のイメージが強かったこと、和歌山の果樹についてはよく耳にしていたこと、そして将来農家になるとき育てたいと思っている柿、桃が有名だったため和歌山のほうに行こうと思いました。家は農家ではなく、一から始めることはいろいろと大変だと思いますが、いつか自分の農園を持つことが将来の夢です。



川東海彗



竹田英晃

私の家は和歌山市で水稻や野菜を栽培しています。私は、保育園の頃から両親の農業を手伝ってきて農業の大変さ、大切さ、充実感も少しは分かっているつもりです。

私が農林大に入学した目的はもっと深く農業の技術や経営のこと知り、今の栽培品目以外も農業経営の中に取り入れたいと考えたからです。また、この学校では農業機械類の資格も取れるので、それを利用して農作業の省力化や農地の規模拡大をしたいと思っています。



田 中 照 人

私は、中学と高校の時に6年間陸上部で長距離競技をしていました。  
 この学校に入学した動機は、私は小さい頃から野菜を食べるのが好きで、食べるだけでなく育ててみたいと思ったことです。それで、この学校に入学しました。この学校では、野菜栽培について専門的な知識や技術を身につけたいと思っています。  
 また、将来の進路ですが、実家が非農家なので卒業したら農業に関われる仕事に就きたいと思っています。



私は、和歌山市出身で、高校はきのくに青雲高等学校普通科卒業です。私が農業に興味を持った理由とこの大学校に入学した目的は、桃山町で80歳を超える祖父母が作る桃が好きで、その後を継ぎたいと思ったからです。私は、果樹コース専攻予定で入学したものの、現在は花きコースを専攻しています。しかし、農家さんの下でアルバイトをして花以外のことについても学んでいます。さらに、卒業するまでに多くの資格や技術の取得・知識の向上を目指し、実習や講義時間以外にも放課後も勉強に励んでいます。卒業後は祖父母の跡を継ぎ、桃農家として生計を立てられるようになり、祖父母が大事にしてきた畑や桃の品質を守りつつ、消費者ニーズに合ったおいしい桃生産に努めたいと考えています。



談 儀 美 咲



段 上 貫 太

私の出身は兵庫県西宮市です。私は自然が好きでよく兵庫県にある六甲山などに登るなどしていました。ですから、仕事は自然の中でできる職業に就きたいと考え、具体的には農業に関係する道を選びました。  
 高校は大阪府立園芸高等学校という農業高校でした。園芸高校の専攻では草花コースを選んでいましたが、果樹の先生に果樹の魅力を沢山教えていただき、果樹の盛んな和歌山の農林大学校に入学しようと決意しました。  
 農林大学校を卒業したら、農業法人に就職し、将来的には畑を借りて自分でも農業をやってみたいと考えています。  
 農林大学校では、特に農薬の効能、様々な果樹品目の栽培技術を身につけたいと思っています。

# 試験研究レポート

REPORT

## 夏秋ギク型スプレーギクにおける消灯後の日長管理技術

農業試験場 栽培部 副主査研究員 松本 比呂起

### 1. はじめに

和歌山県は出荷量全国6位のスプレーギク産地であり、施設を利用した周年生産体系が特徴的です。スプレーギクはお盆やお彼岸といった“物日”に大きな需要があり、そこに合わせて計画的な出荷を行う必要があります。

スプレーギクは短日植物なので、日長を調整することで開花時期をコントロールできます。定植後しばらくの間は夜間に電照をつけて日長を長くすることで開花を抑制しながら株を育てておき、株が十分に成長したところで電照を切る（消灯する）ことで開花を促します。日長の短くなる秋季以降であれば消灯後の自然日長でもスムーズに開花しますが、日長の長い夏季に高品質な切り花を計画的に出荷するためには、消灯後に遮光資材を利用して短日条件を作り出す日長管理（シェード処理）が不可欠です（図1）。しかし、この計画出荷の鍵となるシェード処理の方法は個々の生産者の経験によるところが大きく、夏季に栽培される夏秋ギク型品種では開花時期の遅れや品質のばらつきが問題となっています。

そこで、夏秋ギク型スプレーギクの主要品種について、消灯後のシェード処理の方法が開花時期や切り花品質に与える影響を検討し、適切な日長管理技術の開発に取り組みましたので、その結果について紹介します。



図1 遮光資材を展開した圃場  
注) 実際のシェード処理中は遮光資材で圃場全体を覆うため暗黒条件となります

### 2. 試験研究の内容・結果等

#### 1) 主要品種の日長反応性

県内で栽培されている夏秋ギク型スプレーギク品種10品種を供試し、シェード処理の方法について、①12.5時間日長で開花まで処理、②12.5時間日長で30日間処理（その後は自然日長）、③13時間日長で開花まで処理、④13時間日長で30日間処理の4種類の試験区を設定し、シェード処理中の日長が開花に及ぼす影響について調査しました。

各品種の到花日数（消灯～開花までに要した日数）をみると、日長反応性が高く12.5時間日長と比較して13時間日長で開花が明瞭に遅れるグループとそうでないグループに二分されました（図2）。前者にはJA全農育成の品種が多く含まれ、後者にはイノチオ精興園育成の品種が多く含まれていました。また、同じ日長条件では、30日間シェード処理を終了した場合と比べて、開花まで処理を継続した場合の方が到花日数が短くなりました。

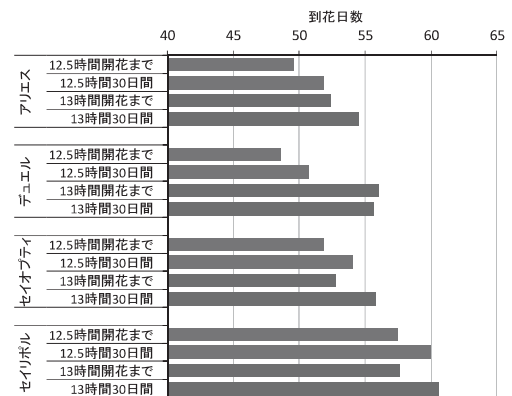


図2 シェード処理中の日長および処理期間が主要品種の到花日数に及ぼす影響

注) アリエス、デュエル：JA全農育成品種  
セイオプティ、セイリボル：イノチオ精興園育成品種

以上のことから、特に開花により短い日長を必要とする品種群については、シェード処理を開花まで継続することが望ましいと考えられました。

## 2) 消灯後の日長と処理日数

続いて、より短い日長を必要とする（長日条件で開花遅延を起こしやすい）とみられる JA 全農育成の 5 品種を供試し、シェード処理の方法について、消灯後① 10 日間、② 20 日間、③ 30 日間を 13 時間日長とし以後 12.5 時間日長で管理する 3 種類の試験区（以後、① 13 時間 10 日区、② 13 時間 20 日区、③ 13 時間 30 日区と表記）と④消灯～開花まで 12.5 時間日長で管理する対照区を設定し、シェード処理中の日長と処理期間の組合せが開花と切り花品質に及ぼす影響について検討を行いました。

各品種の到花日数をみると、ほとんどの品種で対照区が最も早く開花し、消灯後 13 時間日長とした日数が長いほど開花が遅れる傾向がみられました（図 3）。対照区との到花日数の差は 13 時間 10 日区や 20 日区ではほとんどの品種が 3 日未満でしたが、13 時間 30 日区では最大 7 日程度遅れました。

各品種の切り花品質をみると、切り花長は 5 品種中 3 品種で 13 時間 20 日区が最も長くなり、葉面積はすべての品種で 13 時間 20 日区が最も大きくなりました（図 4）。また、13 時間 20 日区と 30 日区では、多くの品種で花首長の伸長もみられました（データ省略）。

## 3. まとめ

本県の夏秋ギク型スプレーギク栽培に適した消灯後の日長管理方法を検討したところ、図 5 のように消灯後 20 日間を 13 時間日長とし、その後を 12.5 時間日長とする管理方法により、開花遅延を起こさずに多くの品種で切り花品質の向上を図ることができました。

以上の結果について、日長管理マニュアルとしてとりまとめるとともに、現地圃場での適応性を確認するべく実証試験を進めているところです。今後の普及に向けて、引き続き生産現場への情報発信を進めてまいります。

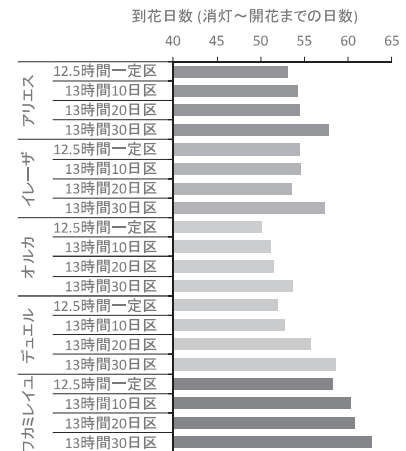


図 3 シェード処理中の日長と処理期間の組合せが開花日数に及ぼす影響

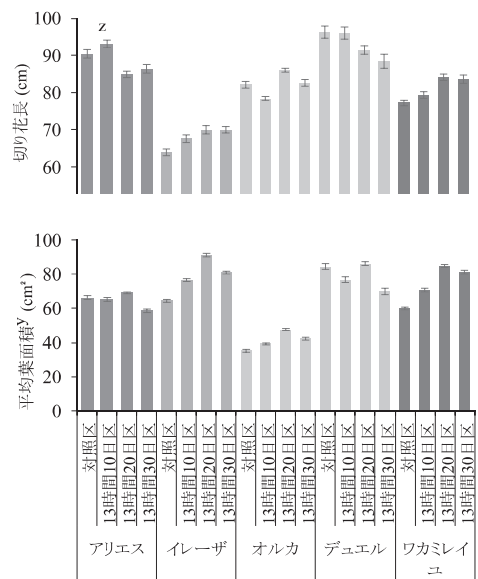


図 4 シェード処理中の日長と処理期間の組合せが切り花品質に及ぼす影響

z: エラーバーは標準誤差を表す  
y: 側花を着生する上位 5 葉の平均値

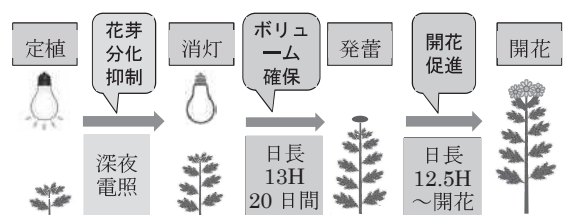


図 5 新規日長管理方法の模式図

# 試験研究レポート

REPORT

## 開花直前の薬剤散布によるウメ灰星病の防除

果樹試験場うめ研究所 副主査研究員 沼 口 孝 司

### 1. はじめに

灰星病はウメの開花期に発生し、感染すると花の腐敗および枝枯れを引き起こし（図1）、大きな収量減少や樹体の損害につながる病害です。小梅品種（「白王」、「パープルクィーン」など）が本病に特に弱く、産地では大きな問題になっています。しかし本病の感染時期である開花期は、ウメ産地全体で受粉のためにミツバチ放飼を行う時期にあたり、薬剤散布による防除ができません。そこで、開花直前（1月中下旬頃）の薬剤散布による防除効果について検討を行いました。

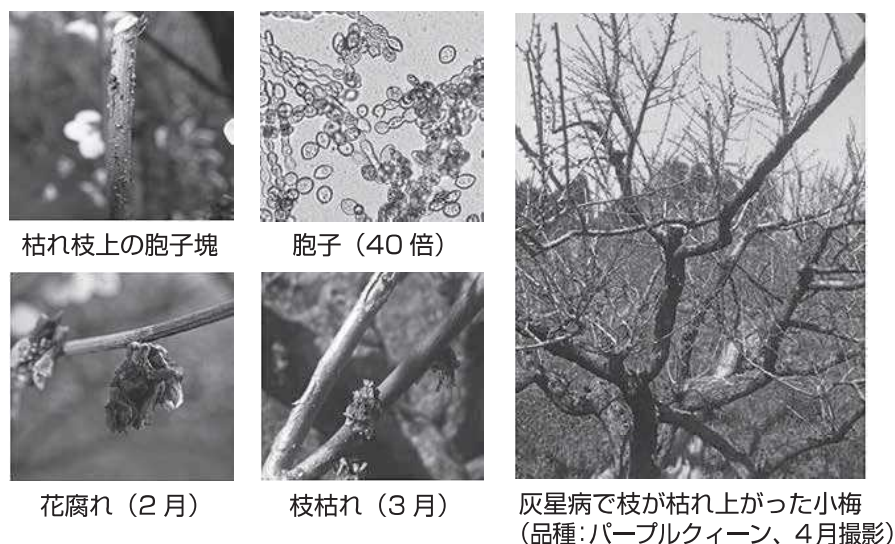


図1 ウメ灰星病の代表的な症状

### 2. 灰星病の発生生態

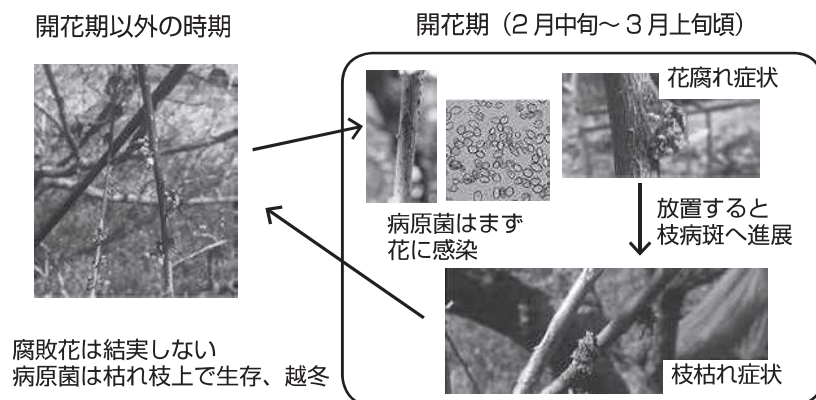


図2 ウメ灰星病の発生生態



灰星病菌は、前年の発病により生じた枯れ枝上で越冬します（図2）。開花期になると孢子を形成し、まずは花に感染して腐敗させます。これを放置すると病原菌は枝に侵入し、維管束（養分や水の通り道）を破壊することで枝枯れを発生させます（図2）。これら花の腐敗および枝の枯死により、当年の収量のみならず、樹体そのものに大きな損害を与えます。

### 3. 開花前のオルフィンプラスフロアブル散布による防除効果

ウメ灰星病の主要感染時期は開花期である2月～3月ですが、和歌山県のウメ産地ではこの期間は受粉用にミツバチを放飼するため農薬の散布が禁止されており、防除が困難です。そこで開花直前（1月下旬）1回の散布で、開花期間中の灰星病菌の感染を防止できる薬剤を探索しました。まず、培地上で菌糸伸長抑制効果を確認したところ、デランフロアブル（デラン、2,000倍）、フロンサイドSC（フロンサイド、2,000倍）、オルフィンプラスフロアブル（オルフィンプラス、3,000倍）、オーソサイド水和剤80（オーソ、800倍）およびベルコート水和剤（ベルコート、2,000倍）に菌糸伸長抑制効果が認められました（図3）。



図3 試験薬剤を添加したPDA培地における灰星病菌の菌糸伸長

次に、これら5剤について上富田町現地ほ場で小梅品種「パープルクィーン」に散布（散布日：2018年1月18日、開花直前）し、発病枝率の推移を調査しました。その結果、オルフィンプラス区が枝発病に対して最も高い防除効果を示しました（図4）。

さらに、これら5剤について3月23日時点の着果率を比較しました。ここでもオルフィンプラス区の着果率が最も高い傾向にありました（図5）。

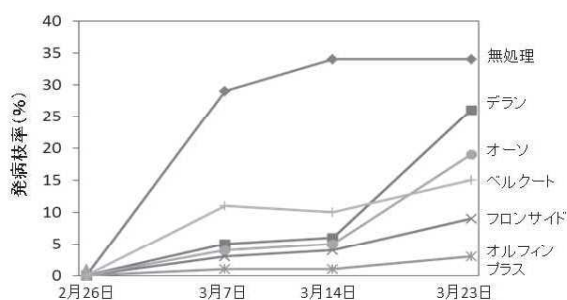


図4 発病枝率の推移  
100枝/樹の中～長果枝を調査

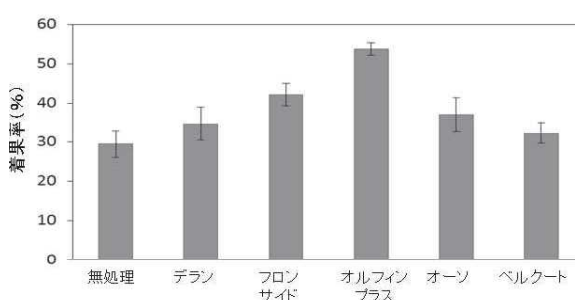


図5 着果率（3枝/区）  
2018年3月23日時点

### 4. まとめ

小梅に大きな被害をもたらす灰星病について、開花直前のオルフィンプラスフロアブルの散布による防除法を確立しました。散布後1か月以上続く開花期の間、できる限り薬剤の効果を持続させるため、樹体全体にムラなく散布することが大切です。また、枯れ枝の除去など、耕種的防除も怠らないようにし、総合的な対策を心がけましょう。

## 「2週間気温予報及び早期天候情報」について

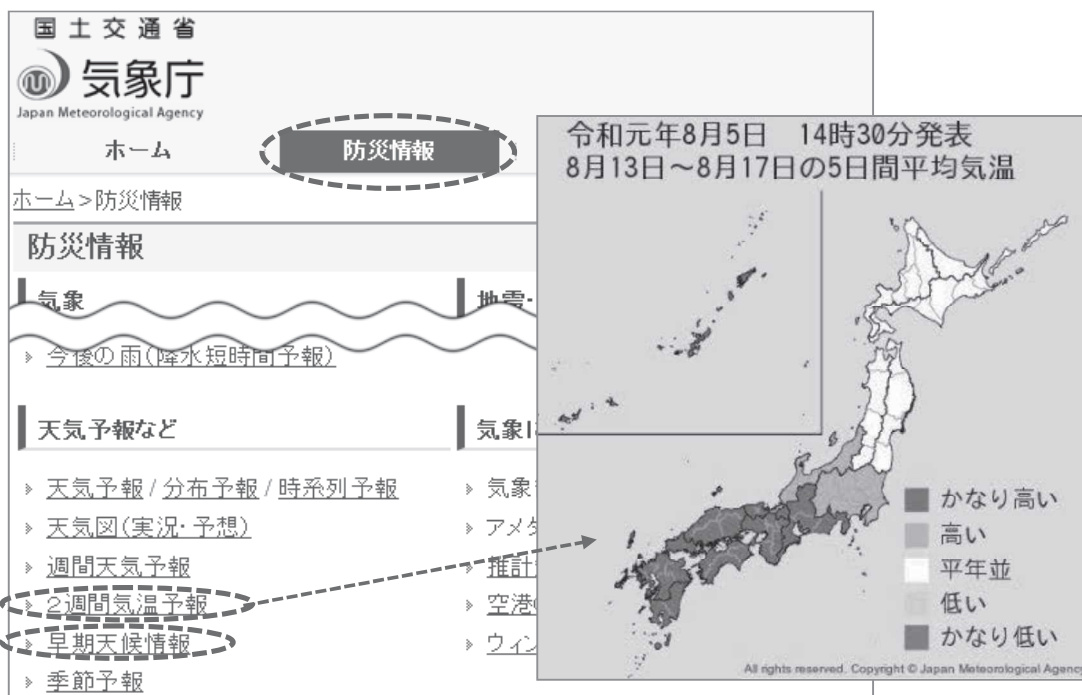
和歌山地方気象台 調査官 芝本章宏

### 1. はじめに

気象庁は、2019年（令和元年）6月19日から、週間天気予報に続く2週間先までの気温の予報「2週間気温予報」を毎日提供しています。また、「2週間気温予報」の対象期間において極端な高温や極端な低温、冬季日本海側地域の極端に多い降雪量が予想される場合に、「早期天候情報」（従来の異常天候早期警戒情報に相当）を原則月曜日と木曜日に発表します。

### 2. 確認するには

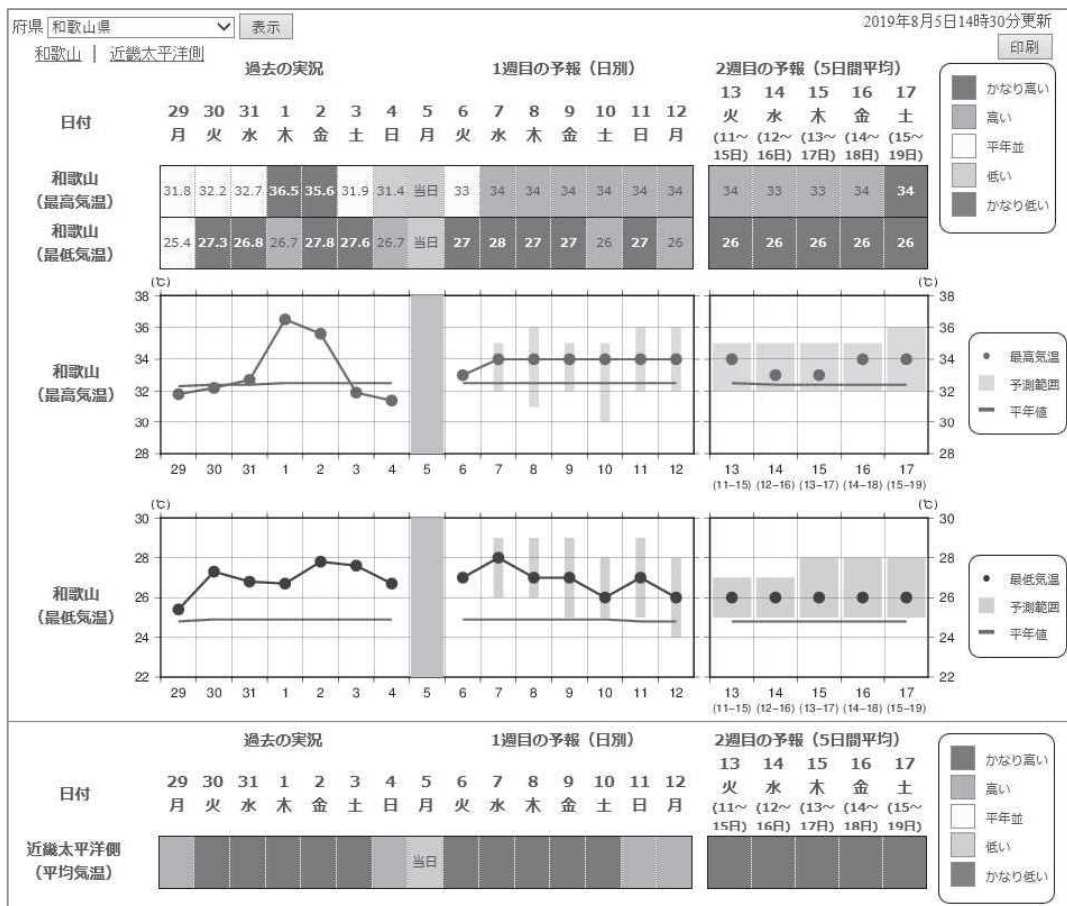
気象庁ホームページのトップページから「防災情報」をクリックし、画面左下の「2週間気温予報」又は「早期天候情報」をクリックすると、日本地図が表示されるので、確認したい県をクリックします。「2週間気温予報」は毎日14時45分頃に更新、「早期天候情報」は毎週月・木曜日14時45分頃に更新されます。



### 3. 「2週間気温予報」とは

最近1週間の気温の経過、週間天気予報で発表された気温予報、「2週間気温予報」を一括で表示し、2週間先にかけての最高・最低気温の推移が一目で把握できるようになっています。また、その気温が例年のその時期と比べて高いのか低いのかも表示します。

注意点としては、過去の実況と1週目の予報は毎日の最高・最低気温を表示しているのに対し、2週目の予報はその日を挟んで前後2日間の最高・最低気温の平均を表示しています。また、グラフの縦棒は予測範囲で、実況の気温がこの範囲に入る確率はおよそ80%となります。例えば、下図の12日の最高気温は34℃で32～36℃に入る確率がおよそ80%となり、13日の最高気温34℃は11～15日の最高気温の平均で、32～35℃に入る確率がおよそ80%となります。



#### 4. 「早期天候情報」とは

「2週間気温予報」の対象期間において、その時期として10年に1度程度しか起きないような「かなり高い(低い)気温」や冬季日本海側地域の「かなり多い降雪量」が予想されるときに、地域ごとに、早めの対策をとれるよう6日前までに発表され、発表日は原則として月曜日と木曜日です。(従来の異常天候早期警戒情報に相当します)

#### 5. こんなところで使えます

農業分野では、作業計画への活用や高温や低温による被害を軽減するための早めの対策に活用できると期待されます。

早期天候情報 令和元年8月5日14時30分 発表  
 情報の対象期間：8月11日～8月19日  
 平均気温

奄美地方 8/11頃から  
 沖縄地方 8/11頃から  
 中国 8/11頃から  
 九州北部 8/11頃から  
 近畿 8/11頃から  
 関東 8/11頃から

■ 発表中 (高温)

高温に関する早期天候情報(近畿地方)  
 令和元年8月5日14時30分  
 大阪管区気象台 発表

近畿地方 8月11日頃から かなりの高温  
 かなりの高温の基準:5日間平均気温年差 +1.6℃以上

近畿地方では、昨日までの1週間は猛暑日を観測するなど、平年に比べかなり高い日が多くなっています。向こう2週間程度も暖かい空気に覆われることから、引き続き平年に比べ高い日が多く、8月11日頃からはかなり高くなる可能性があります。  
 農作物の管理等に注意するとともに、熱中症の危険が高い

# 【設立40周年記念】

## 和歌山県農業士会連絡協議会の歩みを年表で振り返る

和歌山県では、昭和51年度に農業士認定事業が始まり、昭和53年には各地方において、農業士会が発足しました。

翌年には、県段階において和歌山県農業士会連絡協議会が設立され、本年で40年目となりました。

和歌山県農業士会連絡協議会の今までの歩みを、年表で振り返ります。





### 和歌山県農業士会連絡協議会の年表

年度	西暦	県協会長	農業士会連絡協議会の主な活動と認定制度
昭和51年 ： 昭和53年	1976  1978		<ul style="list-style-type: none"> <li>★認定制度開始(指導、青年農業士)</li> <li>○各地方の農業士会が設立される</li> </ul>
昭和54年  昭和55年	1979  1980	南出 誠一 (那賀)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和歌山県農業士会連絡協議会 設立</li> <li>○農業士海外派遣研修スタート ヨーロッパ 4名派遣</li> <li>○海外派遣研修 アメリカ 8名派遣</li> </ul>
			 <p>昭和52年 農業士認定式 普及の年輪 —普及事業50周年記念誌一日高より</p>
昭和56年  昭和57年 昭和58年	1981  1982 1983	辻村 健治 (和歌)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海外派遣研修 アメリカ 6名、 ブラジル2名派遣</li> <li>○海外派遣研修 アメリカ 6名派遣</li> <li>○機関誌「あぜみち」発刊</li> </ul>
			 <p>農業士の海外派遣研修 昭和54年～ 農業改良普及事業40周年記念誌より</p>
昭和60年 ： 昭和61年 昭和62年 昭和63年	1985 1986 1987 1988	北岡 治男 (伊都)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海外派遣研修 アメリカ 6名派遣</li> <li>○海外派遣研修 アメリカ 6名派遣</li> <li>○海外派遣研修 アメリカ 6名派遣</li> <li>★認定制度変更(婦人農業士 追加)</li> <li>○農業士リーダー研修(沖縄県)</li> </ul>
平成元年 平成2年	1989 1990	北岡 治男 (伊都)	<ul style="list-style-type: none"> <li>★認定制度変更(地域農業士 追加)</li> </ul>
平成3年 ： 平成6年	1991  1994	田村 喜一 (和歌)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機関誌「NEWあぜみち」1992年9月 第1号 発行 (県農業士会連絡協議会「あぜみち」と 青経「農政と若い経営」を一本化)</li> </ul>
			
平成7年 ： 平成9年	1995  1997	梶原 宗治 (有田)	<ul style="list-style-type: none"> <li>★認定制度変更 (婦人農業士から女性農業士に名称変更)</li> <li>○農業士海外派遣研修 1月26日～2月10日 参加者4名 オーストラリア、ニュージーランド</li> <li>○農業士・青経合同県外研修 宮崎県 3月3日～4日 参加者 30名 綾町(環境保全型農業)、 串間市(大規模省力化) 視察</li> </ul>

# 和歌山県農業士会連絡協議会の年表

年度	西暦	県協会長	農業士会連絡協議会の主な活動と認定制度
平成10年	1998		<ul style="list-style-type: none"> <li>○近畿ブロック農業士地域研究大会 開催 7月16日～17日 参加者92名(本県63名) 会場:紀伊田辺簡易保険保養センター 基調講演:「魅力ある農業・農村づくりと青年農業者の育成」 講師:南部川村村長 山田 五良 氏</li> <li>○農業士海外派遣研修 9月21日～10月5日 参加者4名 オランダ、ドイツ、スイス、イギリス、フランス</li> <li>○県外研修 埼玉県 3月2日～3日 参加者数23名 埼玉県羽生市(大規模花き栽培、法人化)視察</li> </ul>
平成11年	1999	小池 宏 (日高)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業士海外派遣研修 参加者5名 10月3日～8日 参加者5名 中国(雲南省、広東省)</li> <li>○県外研修 兵庫県淡路島 3月21日 参加者72名 ジャパンフローラ</li> </ul>
平成12年	2000		<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業士海外派遣研修 2月17日～23日 参加者13名 オーストラリア、ニュージーランド</li> <li>○県外研修 滋賀県農業士との意見交換会 3月6日～7日 参加者23名 琵琶湖博物館、ブルーメの丘他 視察</li> </ul>
平成13年	2001	小池 宏 (日高)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業士海外派遣研修 2月18日～22日 参加者19名 韓国</li> <li>○県外研修 兵庫県農業士会との意見交換会 3月6日～7日 参加者27名 レタス、バラ栽培視察</li> </ul>
平成14年	2002		<ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道農業士会(26名)との意見交換会 11月26日 和歌山市「はやし」参加者12名</li> <li>○県外研修 奈良県農業士会との意見交換会 3月3日～4日 参加者29名 イチゴ、シュンギク、あすか夢耕社視察</li> </ul>
平成15年	2003	赤阪 岩男 (伊都)	<ul style="list-style-type: none"> <li>★認定制度変更(女性農業士を廃止、指導、地域、青年と一本化)</li> <li>○和歌山県農業士会連絡協議会 メーリングリスト活用開始</li> <li>○県外研修 徳島県上勝町 2月25日～26日 参加者29名 「彩」農業の取り組み 視察</li> </ul>
平成16年	2004		<ul style="list-style-type: none"> <li>○近畿ブロック農業士地域研究大会 7月27日～28日 参加者76名 会場:和歌山市 ロイヤルパインズホテル 講演:「日本一の梅の村から梅・夢発進」 講師:(株)紀州ほそ川代表取締役 細川 清 氏</li> </ul>
			<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>近畿ブロック農業士地域研究大会 平成16年 ロイヤルパインズホテル</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>交流会</p> </div> </div>

# 和歌山県農業士会連絡協議会の年表

年度	西暦	県協会長	農業士会連絡協議会の主な活動と認定制度
平成17年	2005		○視察研修 大阪府 2月7日 参加者 27名 神戸植防関空支所、加太菜園(和歌山市)
平成18年	2006		○県外研修 瀬戸田農業士会との意見交換会 広島県尾道市、世羅町 8月29日～30日 参加者24名 レモン栽培、世羅高原、夢高原市場視察
平成19年	2007	今西 敏文 (那賀)	○県外研修 三重県伊賀市、滋賀県伊香郡 8月23日～24日 参加者24名 伊賀の里モクモク手づくりファーム、 滋賀県農業技術振興センター湖北分場(鳥獣対策)
平成20年	2008		○県外研修 京都府京都市、南丹市 8月25日～26日 参加者21名 こと京都、かやぶきの里 北村 視察
			 
			<p>平成20年度 県外研修 京都府 こと京都</p> <p>平成20年度 県外研修 京都府 かやぶきの里</p>
平成21年	2009		○県外研修 長野県御代田町 8月20日～21日 参加者18名 (有)トップリバー視察
			 
			<p>平成21年度 県外研修 長野県 (有)トップリバー</p>
平成22年	2010		○近畿ブロック農業士地域研究大会 7月29日 参加者123名 会場:和歌山市 和歌山ビッグ愛 「お嫁にきてらよ！」田辺市の婚活事業への取り組みについて 講師:田中 一正氏(和歌山県指導農業士) 木村 博允氏(田辺市農業振興課 農政係長)
			 
			<p>近畿ブロック農業士地域研究大会 平成22年 和歌山ビッグ愛</p> <p>分科会</p>

# 和歌山県農業士会連絡協議会の年表

年度	西暦	県協会長	農業士会連絡協議会の主な活動と認定制度
平成23年	2011	西村芳規 (和海)	○県外研修 広島県広島市、三次市 8月18日～19日 参加者23名 中川農園、平田観光農園視察
平成24年	2012		○機関誌「NEWあぜみち」第42号」で終了 ○県外研修 香川県善通寺市 8月21日～22日 参加者19名 近藤農園(担い手育成)、近畿中国四国研究センター、淡路フルーツ農園視察
平成25年	2013	吉本 好澄 (和海)	○機関誌「和歌山の農業士」第1号 発行 ○県外研修 静岡県浜松市、愛知県扶桑町 8月28日～29日 参加者23名 JAみっかび、(有)ゴトーアグリ視察 ○和歌山県農業士会連絡協議会メーリングリスト 終了
平成26年	2014		○県外研修 岡山県真庭町、兵庫県姫路市 9月8日～9日 参加者24名 木質バイオマス、夢前夢工房視察
平成27年	2015	志波 元昭 (西牟婁)	○県外研修 広島県世羅町、兵庫県たつの市 8月3日～4日 参加者24名 世羅香水農園、(株)ささ宮農視察
平成28年	2016		○近畿ブロック農業士地域研究大会 参加者99名 7月26日 参加者99名 会場:みなべ町 紀州南部ロイヤルホテル 講演:「TPPについて」 講師:農林水産省国際部国際経済課 国際専門監 貞包 隆司 氏
			
			 <p>近畿ブロック農業士地域研究大会 平成28年 紀州南部ロイヤルホテル</p>
			 <p>近畿ブロック農業士地域研究大会 産品紹介</p>
平成29年	2017	山崎 明 (有田)	○県外研修 愛媛県、香川県 参加者22名 8月22日～23日 参加者22名 無茶々園、香川県農業試験場府中果樹研究所視察
平成30年	2018		○県外研修 石川県、岐阜県 参加者26名 8月30日～31日 参加者26名 本田農園、小屋垣内農園視察
平成31年 (令和元年)	2019	岡田 敦雄 (日高)	★認定制度変更(地域農業士解除年齢を65才に引き上げ) ○設立40周年記念行事 東北研修 8月20日～22日 宮城県、岩手県 参加者9名 せんだい農業園芸センター、(株)南部美人 農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究拠点、松本りんご園視察

※ 近畿ブロック農業士地域研究大会(和歌山県開催)は、記録が残っている平成10年から記載。  
県外研修は、記録が残っている平成9年から記載。

## 農業に入り継続し生涯現役で

平成 15～18 年度 会長

かつらぎ町 赤 阪 岩 男



### 1. はじめに

私は、中山間地にある伊都郡かつらぎ町天野（海拔 450m）で生を受け、自然のごとく農家を継ぎ、現在に至っています。

私が子どもの頃、我が家は酪農を営んでおり、長男の私は中学生の終わり頃から母の手伝いで乳牛の搾乳を毎日手伝い、高校時代には牛の餌として水田の畔草を刈るなど一人前の作業をしてきました。当時から県の家畜保健所や普及所の先生方にお世話になり、自然と農の道に入りました。

昭和 52 年に青年農業士に認定され、その頃、経営規模拡大で乳牛の飼養頭数が増す中、牛の飲み水不足、飼料価格の高騰、原乳（生乳）価格の低迷等により、農業経営の方向を変えざるを得なくなりました。当時、団塊の世代で地元に残る長男達も会社勤めや家業を離れる（離農）者が増える時代です。

私は普及所の助言を受け、小規模な野菜栽培から花栽培（露地 30a、施設 30a）へ方向転換しました。丁度、この頃は地域農業士として農業士会活動に精力的に参加し、地域や県内の多くの仲間と交流し、情報交換を行った時期でした。様々な問題が噴出してきて、これらの解決のため、地域に残る若者が使命（役割）として担ぎ出されるなど、大変な時代であり変貌期でした。バブル景気の時代からバブルが弾けて不況へ、その上、阪神淡路大震災が起こり、花栽培には大変な時代でしたが、有難いことに私はどこへ行っても皆様に可愛がっていただきました。当時の県知事や県職員の皆様には諸問題の解決に向けてご尽力を頂きました。中山間地総合整備事業（圃場整備）、産廃問題、中学校へのバス通学の道路問題、小学校の校舎建て替えなど地域の課題も山積した時代でもありました。

その後、指導農業士に認定され、農業経営改善計

### 現在の農業経営の概況

- 作付品目と面積
  - 水稻 280a
  - 野菜 20a  
(ピーマン、トマト、ダイコン 他)
- 労働力
  - 家族労力 2 人、臨時雇用 8 人

画の作成、青少年問題などの地域課題にも取り組みました。平成 12 年頃から顕在化してきた獣害は、県内全域での問題となり、県農業士会通常総代会において緊急動議の提出が求められ、これを受け、執行部も全県的な運動にすると対応策をたて、獣害対策に取り組む旨の議決を採択し、現在の獣害対策の基礎となっています。

### 2. 農業士の方への想い・提言など

私にとって農業士会は人生であり青春そのものであったと思っています。

農家（農民）に国の食糧生産の役割・使命感を捨てよと言われ、はや 50 年。農業の使命感を捨てて耕作放棄をしたために国土が崩壊しつつあり、他方、農地造成等の事業化にあっては、関係者への十分な説明と合意形成、事業内容を精査した上で進める必要がある。本県の農業は国の施策に合致した地形ではない。農地・林地を守る使命感を持たせなければと必死である。

近年、豪雨被害や自然災害が多発している昨今、素早く対応のできる農業士（農家）になられることを望んでやまない。



## 農業士への期待

平成 19～22 年度 会長

紀の川市 今西敏文



### 1. はじめに

平成 19 年度から 4 年間、会長を務めさせて頂きました。在任中は、県内外の農業士の皆様と知り合うことができ、たくさんの活動に参加させて頂きました。

会活動の中で、最も印象に残っているのが、平成 22 年度に和歌山県で開催した近畿ブロック農業士地域研究会です。研究会を開催するに当たり、「おもてなしの心」を前面に出した開催を行うとの気運の高まりから、「農業士自らによる積極的運営を行う」と役員で話し合い、準備段階から運営に至るまで、各地域の農業士さんの協力の基に研究会を開催したことです。

研究会のメインテーマは「婚活」で、講演会と分科会を開催し、講演会では、田辺市の田中さんに「お嫁にきてら」と題して、農業士が中心になっての婚活についてお話ししていただきました。分科会では、近畿各府県ともに婚活について熱心で、女性農業士を中心に大いに盛り上がり、活発な議論が交わされました。これからも、積極的に取り組みたいという意見でまとめ、有意義な研究会を開催できたことがとても印象に残っています。

### 2. 農業士の方への想い・提言など

昭和 51 年から始まった農業士認定制度ですが、多くの農業士の方々が県下各方面で、農業という奥深い職業に真剣に取り組んでいることと思います。

#### 現在の農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	110 a
桃	60 a
柑橘	20 a
雑柑	20 a
○労働力	
家族	2 人
臨時雇用	3～4 人

特に最近の異常気象による災害や、鳥獣害による被害は、農家の生産意欲を無くすのではないかと感じています。

近年、消費者から安全で安心できる農産物が求められるようになってきました。私達生産者もこれらのニーズを踏まえ、高付加価値の農産物生産に努めると共に、食料生産の場としてだけでなく、ゆとりや潤いをもたらす癒やしの場、心の故郷としての期待感も高まっています。

その一方で、農業は少子高齢化による担い手不足が進み、集落そのものの存続が危ぶまれている地域も出てきました。このような時代にあって、後継者の育成、地域振興といった、我々農業士の活動に期待がますます高まっています。今後とも、農業士として誇りと情熱、信念を持って、共に、私達の農業を守り育てましょう。

REPORT

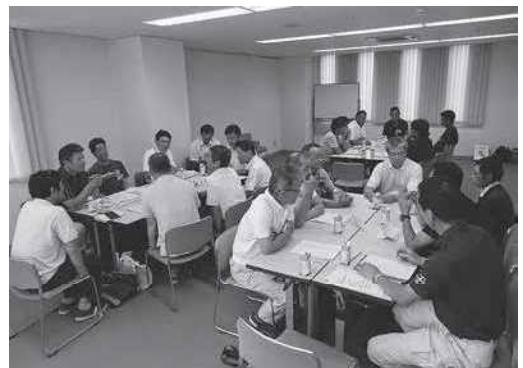
## 「次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み」

下津町農業士会 会長 森岡利行

下津町農業士会（会員：19名）では、下津地域全体として農業を次代につなぐために何ができるのかという思いから、「海南・下津農業の将来を考える集い」を開催し、その後も地域の重要課題となっている労働力の確保対策等について取り組んできたので、その内容について紹介します。

### 1. 「海南・下津農業の将来を考える集い」の開催

下津地域全体として農業を次代につなぐための取組を考えるきっかけが必要であるとの思いから、下津町農業士会が主体となり、海草振興局、海南市、JAながみね等の協力も得て、地域の農業者にも広く声をかけ、平成30年9月7日「海南・下津農業の将来を考える集い」を開催しました。準備にあたり振興局の普及指導員さんと役員を中心に何度も検討会を重ね、当日は、女性用農作業着のファッションショーや勉強会&グループディスカッション「産地の将来を考えよう♪」などを実施しました。



集いでグループ討議

勉強会&グループディスカッションでは、和歌山大学 食と農の総合研究所 辻和良特任教授より先進事例をもとに話題提供いただき、その後、年代別のグループに分かれて「農業を継げるような環境とは」「労働力を確保するために」などをテーマに意見交換を行いました。

日頃は、会員同士でも突っ込んだ話し合いなどしたことがなかったのですが、自分の考えを話せたことや世代間でのいろいろな考え、地域の課題等を参加者の間で共有できたことが、私たちにとって意義のあるイベントになりました。

また、今後、地域の課題について関係機関が連携して話し合っていくために、下津町農業士会、JAながみね、海南市、海草振興局がメンバーとなり「海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム」を結成しました。

### 2. 「しもつ地域での援農プロジェクトを考える交流会」の開催

「海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム」では、農業士会をはじめ援農に興味のある農業者を対象として、平成31年3月27日に「しもつ地域での援農プロジェクトを考える交流会」を開催しました。

交流会では、はじめに話題提供として、市坪地区の農業者グループのリーダーから、5年前に市坪地区で

援農キャラバンをスタートさせた経緯や具体的な取組内容についての説明があり、続いて下津町内で援農プロジェクトに取り組まれている FROMFARM の大谷幸司氏から現在の蜜柑援農の取組状況について説明していただきました。

その後、3 グループに分かれて各地区での労働力の確保状況や課題、今後の取組への意見などを話し合いました。その結果、この取組を継続させることの重要性や関係機関等が中心となった宿泊場所の確保への期待、収穫期以外の雇用の需要と滞在援農者のマッチングなどについて多くの意見が出されました。

今までは他地区の労働力の確保状況など知らなかったのですが、今回の交流会で先進地区の事例を聞いたり、出席者の確保状況や課題について話し合う良い機会になりました。今後も、援農プロジェクトの取組に向けた地区リーダー育成や地域での連携体制づくりなど、引き続き検討していくことが必要だと思いました。



援農について意見交換

### 3. 「農作業省力化&とく農家栽培技術研修会」の開催

令和元年7月18日、魅力ある園地へのチャレンジ推進活動として、下津町農業士会主催で「農作業省力化&とく農家栽培技術研修会」をJAながみねしもつ営農生活センターで開催しました。

研修会では、はじめに日高川町新果樹研究会の八田啓氏から「農作業省力化に関するアイデア特集」と題して、自身が考案した農作業省力化に繋がるアイデアについて紹介していただきました。



橋詰氏の講演

続いて下津町農業士会の橋詰孝氏から、「とく農家のかんきつ栽培～連年結果による品質向上を目指して～」と題して、かんきつ栽培における肥培管理の考え方、剪定の重要性やポイント、隔年結果対策等について自身のこれまでの経験を基に説明していただきました。

下津町農業士会はほとんどがみかん農家で、省力化や隔年結果等の問題を抱えていることから、みかん作りの先輩お二人の話は大変参考になり、会員からも今後の作業に活かしていきたいという声が出ていました。

### 4. 最後に

地域の20年先を見据えて、今やるべきことに取り組む必要性を感じていたところ、昨年、下津町農業士会が主体となり、地域の農業者が意見を交わすことができる集いを開催できました。この集いをきっかけに、農業士として地域のために何ができるか一人一人が考えるようになったと思います。

今後も会員がこの思いを持ちながら、関係機関と連携して、次世代につなぐ下津みかん産地への取り組みを進めていきたいと思っています。

# 県外研修レポート

設立 40 周年記念 東北研修

## 「地元農産物を活用した販売戦略に学ぶ」

地域の特性を活かした6次産業化を目指して

和歌山県農業士会連絡協議会 副会長（青年） 玉置 貴 啓

### 1. 県外研修の概要

今年度は、和歌山県農業士会連絡協議会設立 40 周年の記念行事として、8月20日～22日の日程で、県農業士会連絡協議会会員9名、県職員3名の計12名で、東北方面での県外研修を実施しましたので概要を報告します。

### 2. 研修結果等

#### ○せんだい農業園芸センター

宮城県は、米、畜産が中心で、果樹は少なく、100万人都市である仙台市の中で、せんだい農業園芸センターでは、一年中摘み取りができる観光果樹園をコンセプトにし、来場者に楽しんでもらうほか、観光果樹園の運営をとおして、農業の複合経営や先端技術の経営モデルとなるような研修事業、実証実験などを行っている。

センターの運営は、6次産業化やショッピングモール、ホテル事業の運営ノウハウなどを持つ仙台ターミナルビル株式会社が仙台市と協定を結び、「収益性の高い農業推進支援拠点」として運営している。



リンゴのジョイント栽培



【行 程】	
8月20日	せんだい農業園芸センター（宮城県仙台市）
8月21日	株式会社 南部美人（岩手県二戸市） 農研機構 果樹茶業研究部門 リンゴ研究拠点（岩手県盛岡市）
8月22日	松本りんご園 mi café（岩手県盛岡市）

主には果樹観光農園とミニトマトなどの環境制御技術導入施設で摘み取り体験などの事業を実施している。

#### ○株式会社 南部美人

南部美人では、海外の上流階級の3%程度を占めるといわれる、ユダヤ教徒におけた「ユダヤ教徒が食べても良い「清浄な食品」」の認証であるコーシャを取得している。

また、海外では、食品の安全について厳しいこと



凍結輸送する梅酒を開発  
田村製造部長の説明

から輸出を進めるために、HACCP 認証を取得。

梅酒専用の甘口の純米酒を全麹仕込みで開発し、砂糖を使わずに甘い日本酒から造る糖類無添加のリキュール（梅酒）の製造に取り組んでおり、特許を取得している。

#### ○農研機構 果樹茶業研究部門

##### リンゴ研究拠点

昭和 13 年に青森県藤崎町に農林省園芸試験場東北支場として創設され、その後、昭和 34 年に岩手県盛岡市に移転された。

現在も樹齢 80 才となる「ふじ」の原木が保存されている。

リンゴの品種、わい性台木の開発は現在も続いており、わい性台木の JM (JAPAN MORIOKA) シリーズなどがある。

リンゴ開発拠点では、世界の約 2,000 種の品種の展示や、カラムナータイプ（円柱状になる McIntosh red（日本名 旭）の枝変り）品種、ジョイント栽培など仕立て方の展示、農薬防除の効果についての展示なども行われている。

岩手県では、スピードスプレヤーの導入が進んでおり、基本的に手散布を行っている農家はいないとのこと。



柳沼氏からの説明

#### ○松本りんご園 mi café(ミ カフェ)

経営面積は約 2ha。出荷は 8 月末から 12 月までで、収穫の最後は「ふじ」で 11 月中旬に終わる。リンゴの他にも、ブルーベリーやプルーン等、多数栽培している。

松本りんご園では、小面積での専業であるため、秀品から裾物まで売る仕組み作りを心がけた。

当初は、生産されるリンゴを全て使い切ることは難しかったことから、リンゴの加工品と、景色を活かした経営を展開。

りんご畑の中の cafe はオープンから 12 年経った現在では、県内外から年間 8,000 人の来客がある。

また、地区のリンゴ農家と非農家住民、消費者との交流を目的に、平成 11 年から自身の畑で「りんご畑 de コンサート」を開催しており、毎年 500 人くらいの来場者がある。



松本正勝氏、直子氏（左）

### 3. 研修の感想

今回の研修に参加し、地元農産物を活用した地域密着型の活動をしていることや多くの若者が活躍していることが強く印象に残りました。

私が住む田辺市芳養地域では、今回の研修先のような地域に密着した活動だけでなく、中山間地域の特性をうまく活用した収益性の高い農業を考えていくことが大変重要であると感じました。

また、担い手の育成や企業とのタイアップを積極的に行うことで、少しずつでも 6 次産業化に取り組んでいく必要があると思いました。

# 農業共済制度の紹介

## 園芸施設共済について ～園芸施設等の被害を補償～

和歌山県農業共済組合

園芸施設共済は、農業保険法に基づいて実施されている国の災害対策の保険で、掛金の半額を国が負担しています。また、大災害が起きても確実に支払われるよう、国がバックアップしています。

ここでは、園芸施設共済の加入申し込みから共済金のお支払いまでの内容を簡単にご紹介させていただきます。

### 1. 対象となるもの

ガラス室・プラスチックハウス・雨よけ施設等で合計面積が1アール以上（ガラス室は0.5アール）あれば加入することができます。

※複数の施設を所有している場合は、原則としてそのすべてを加入する必要があります。（経過年数がパイプハウスで25年超過、鉄骨ハウスで35年超過、または共済価額20万円以下のハウス等は加入しないことができます。）

※換気施設、温湿度調節施設等の「附属施設」や、本体が倒壊した時の撤去にかかる費用を対象とする「撤去費用」にもあわせて加入することができます。

### 2. 責任期間

毎月10日、または25日から加入できます。責任期間（加入期間）は、原則として1年間です。



### 3. 共済金額（補償額）

共済価額（再建築価額）の4割から8割の範囲内で選択できます。経年減価を反映しますので実際の再建築価額と異なります。

### 4. 共済掛金

国が掛金の半額を負担します。農家負担掛金 = 共済金額 × 共済掛金率 × 1/2  
「パイプハウス」で10a当たり共済価額約260万円、掛金が約33,000円です。（新築）

※これに事務費賦課金（10a当たり2,600円）が必要となります。

### 5. 対象となる災害

台風、突風などの気象上の原因による自然災害、地震、津波、火災等が対象となります。ただし、自然消耗等によって生じた損害は対象となりません。

### 6. 損害評価

災害によって被害が発生した場合、速やかにご本人がNOSA Iまで被害発生のお知らせを行ってください。損害評価については、組合職員が現地調査を行い損害の額を算定します。

### 7. 共済金のお支払い

強風等により、1棟ごとにビニールの破損及び本体の骨組みに損傷を受けた時、その損害額が3万円超過、もしくは共済価額の20分の1を超過時、共済金のお支払い対象となります。

※共済責任期間中であれば、全損にならない限り、何回事故があっても復旧されていれば評価の対象となります。

## 生産部会等の集団で加入すると掛金等が割引に！！

New

### 他にもニーズにあわせて掛金を安く抑える制度が導入されました！

生産部会等の集団と農業共済組合が、集団加入についての協定を締結した場合、掛金及び賦課金の割引をいたします。他にもニーズにあわせて大幅に掛金を割り引く制度が導入されました。

#### 集団加入でお得に加入

- ▶ 生産部会等の集団が一斉加入を行った場合賦課金を割り引き ➡ 賦課金割引率 10%または20%
- ▶ さらに、要件に合致する共済加入者の共済掛金率を割り引きます。 ➡ 掛金割引率 5%

#### 大きな被害に限定（補償範囲の選択による掛金の割り引き）

- ▶ 小損害不填補の選択肢の増加・・・損害額が棟ごとに選択した支払開始金額を超える場合に共済金をお支払いします。また、小損害不填補20万円を選択した場合、共済価額20万円以下のハウスは加入しないことができます。

選択肢	共済金支払の条件	掛金割引率
3万円コース	損害額が3万円を超える場合、又は共済価額の20分の1	0%
10万円コース	損害額が10万円を超える場合	約15～60%
20万円コース	損害額が20万円を超える場合	約30～80%
50万円コース（※1）	損害額が50万円を超える場合	約60～90%
100万円コース（※1）	損害額が100万円を超える場合	約80～95%

（※1）50万円又は100万円を選択する場合、特定園芸施設等の共済価額が選択金額を超えている場合に限りです。

#### 老朽化したハウスを除外（耐用年数を大幅に超過した施設は、補償範囲に含めないことができます）

- ▶ 古い施設の補償を必要としない場合（原則、全棟加入となります）
- ▶ 耐用年数を2.5倍以上経過した施設は園芸施設共済に加入しないことができます。  
[例：パイプハウスで25年超]

#### 骨材が太いパイプハウスはお得に（施設を補強した場合は掛金を割り引きます）

- ▶ プラスチックハウスⅡ類（40-2型） ➡ 掛金割引率 15%  
※骨材の主要部分が31.8mm以上の径のパイプにより造られている施設

❗ もしもの時に備えて園芸施設共済にご加入しませんか。詳しくは、お近くのNOSA Iまでお問い合わせください。

□お問い合わせ先□

和歌山県農業共済組合	本所	TEL・・・073-436-0771
和歌山事務所	TEL・・・073-471-1983	北部支所 TEL・・・0736-73-6724
中部支所	TEL・・・0737-63-5121	南部支所 TEL・・・0739-22-0833

# 農業士認定事業について

お知らせ

## 地域農業士の認定解除年齢が変わりました ～ 定年が 60 才から 65 才へ 延長～

経営支援課

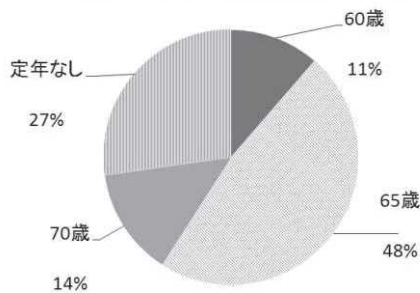
近年、日本人の平均寿命が延び、“人生 100 年時代の到来”とも言われています。

民間企業でも、労働力の確保や、技術の継承などを目的に定年を 65 才に延長したり、撤廃する動きも増えています。

農業士においても、認定制度がある全国の定年状況では、「定年無し」が 27%、「70 才」が 14%、「65 才」が 48% であり、定年 60 才は 11%と極少数派となっています（図 1）。

全国の農業士の皆様は 60 才を超えても農業士として活躍されており、このような状況を踏まえて、令和元年度から和歌山県でも「地域農業士」の認定解除年齢を 60 才から 65 才に引き上げました。今後も、地域農業士の皆様の更なるご活躍を期待しています。

図 1 全国の農業士定年の年齢



※出典：第 41 回指導農業士全国研究会 資料

＜農業士の認定解除年齢の変更点＞

種別	認定解除年齢		備考
	変更前	変更後	
指導農業士	65才	65才	
地域農業士	60才	65才	令和元年度から適用
青年農業士	40才	40才	

# スマート農業実証

お知らせ

## スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの 取組について

和歌山県スマート果樹栽培実証コンソーシアム 代表機関 果樹試験場うめ研究所

農業の労働力不足が大きな問題となる中で、本県では省力化や軽作業化を目的に、ICT（情報・通信技術）やロボット等の革新的技術を農業に取り入れる「スマート農業」を積極的に推進しています。

この度、本県において試験場、生産者、普及組織および J A で構成されるコンソーシアム（共同事業体）を結成し、農林水産省に提案した課題が「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に採択されました。本課題は令和元年度から 2 年間、みなべ町および上富田町のウメとミカンの生産者の栽培圃場 4 か所（計 95 a）において、スマート農機の導入実証を行い、機械化による一貫作業体系の確立を目指します。実証する農機や、取組内容の詳細については次ページを参考にしてください。

本コンソーシアムでは、一般の生産者や関係機関に向けてスマート農機の実演会も行っています。今年は 7 月に果樹試験場うめ研究所で、9 月にみなべ町で開催し、多くの見学者が訪れました。次回は令和 2 年 3 月に上富田町で開催予定です。開催日が決まりましたら、県のホームページ（わかやま県政ニュース）や新聞に掲載しますので、ご興味のある方はふるってご参加下さい。



# スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの取組

## 和歌山県スマート果樹栽培実証コンソーシアム

実証課題名	ウメ専作およびミカンとの複合経営におけるスマート作業体系の実証(R1~2年度)
構成員	和歌山県うめ研究所(研究推進室)、果樹試験場、経営支援課、日高振興局農業水産振興課、西牟婁振興局農業水産振興課、JA紀州、JA紀南、JAグループ和歌山農業振興センター、森川農園(日高郡みなべ町)、井潤農園(西牟婁郡上富田町)

### 【背景・課題】

- ウメ、ミカンは生産量がともに全国1位で、和歌山県の農業産出額に占める割合はミカンが27%、ウメが17%と重要な品目。
- 農家の高齢化や減少が進む中で規模拡大が課題であり、そのためには機械化による労働生産性の向上が必要。



みなべ町うめ平坦園

全国一の産出額を誇る県内の果樹産地を今後も維持していくため、スマート農機導入による効果を検証していく。  
 まずはウメ、ミカンを対象に、造成園等の平坦、緩傾斜園で実証し、本プロジェクトの成果をもとに、カキ、モモ等の他の基幹果樹への展開をめざす。

### 【実証する技術体系の概要】

- 要素技術 ①自走式草刈機、②自動かん水装置、③自走式運搬車、④パワーアシストスーツ、⑤農薬散布用ドローン

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実証時期		①②		③④	⑤①②	①③					①	



①自走式草刈機(三陽機器(株))



①自走式草刈機((株)ササキコーポレーション)



②自動かん水装置(アースコンシャス(株))



③自走式運搬車(三晃精機(株))



④パワーアシストスーツ(パワーアシストインターナショナル(株))



⑤農薬散布用ドローン(XAIRCRAFT JAPAN(株))

# 2020年度 和歌山県農林大学校農学部 学生募集！

和歌山県の農業に活力を与え、地域リーダーとして活躍できる人材を育成する農林大学校。

2020年度の農学部の入学試験を下記のとおり行います。



※) 詳細は募集要項で必ずご確認ください。

学科	一般入学試験	追加入学試験 ※一般入試で定員を満了した場合は実施しません。
募集人員	園芸学科：30名	アグリビジネス学科：10名
修業期間	2年	
試験日	2019年12月10日(火)	2020年3月13日(金)
受験資格	高等学校を卒業、または2020年3月までに高等学校を卒業見込みの者 (詳細は下記まで問い合わせて下さい)	
試験科目	1 筆記試験 ①必須科目 小論文、数学Ⅰ、国語総合 ②選択科目 コミュニケーション英語Ⅰ、生物基礎、化学基礎、農業と環境の4科目から1科目を選択 2 面接試験 農業、社会常識 など	
出願期間	2019年11月19日(火) ～12月2日(月)	2020年2月24日(月) ～3月5日(木)
合格発表	2019年12月12日(木)	2020年3月17日(火)
試験場所	農林大学校 農学部	
提出書類	ア 入学願書〈本校指定用紙 別紙1-2〉 ※ <u>県外に住所を有する者は和歌山県農林大学校志望調書〈本校指定用紙 別紙2〉</u> イ 最終学校の卒業証明書、または卒業見込み証明書 ウ 最終学校の調査書、または成績証明書 エ 健康診断書〈本校指定用紙 別紙4〉 オ 履歴書 (市販のもの) カ 404円分の切手2組 ※2020年3月卒業見込みの者は、イ、オは不要	

問い合わせ先

## 和歌山県農林大学校農学部

〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降 422

TEL：0736-22-2203 FAX：0736-22-7402

ホームページアドレス <http://www.ag-wakayama.ac.jp>

(募集要項はホームページからダウンロードできます)



HPへアクセス！

## (参考) 農業士について

昭和 51 年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士 (65 歳まで)」「地域農業士 (65 歳まで)」「青年農業士 (40 歳まで)」の3つの区分がある。

令和元年 11 月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	157 名 (うち女性 29 名)
地域農業士	520 名 (うち女性 49 名)
青年農業士	129 名 (うち女性 1 名)
合 計	806 名 (うち女性 79 名)



表紙の人

田辺市 指導農業士

**廣畑 幸男**さん

和歌山県農業士会連絡協議会 理事

廣畑さんは梅 400a を栽培し、漬け梅出荷を主体に経営を行っています。

また J A 紀南の梅特別栽培研究会員として、一部、特別栽培にも取り組んでいます。

※訂正とお詫び

第 12 号の<私の農業>(地域農業士 小澤守史さん) は、有田市でなく有田川町でした。  
訂正してお詫びします。

## 和歌山の農業士 第 13 号

発行日：令和元年 11 月

編 集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印 刷：有限会社 阪口印刷所

The region  
agriculture  
leader of  
Wakayama  
Prefecture

# 和歌山の 農業士

和歌山県  
和歌山県農業士会連絡協議会

